

平成 21 年度

事業報告書

平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日



財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

I. 役員会等	1
II. 科学技術振興事業	2
III. 科学技術館事業	3
IV. 情報システム事業	6
V. 所沢航空発祥記念館運営事業	6

資 料 編

I. 役員会等	11
II. 科学技術振興事業	21
III. 科学技術館事業	29
IV. 情報システム事業	55
V. 所沢航空発祥記念館運営事業	58

平成 21 年度事業報告書

平成 21 年度(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)は、年度当初の事業計画に基づき所期の目標を達し、成果をあげることができました。

これはひとえに、国、産業界、学会ならびに JKA、日本財団、日本宝くじ協会など関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本年度実施しました事業の概要は次のとおりです。

I. 役員会等

1. 会議の開催

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 会長・副会長会議の開催
- (4) 三財団連絡会議の開催
- (5) 評議員選定委員会の開催

2. 対外機関との連携活動

- (1) 賛助員活動
- (2) 企業・団体との連携活動

3. 建物および建築設備の維持管理

- (1) 空調設備機器の改修
- (2) 空調機等の薬品・高圧水洗浄
- (3) 空調機等の整備
- (4) 消防・防災設備の整備
- (5) 建築設備の整備
- (6) 塗装工事の実施

4. 企画広報活動

- (1) 企画活動
 - ①調査事業

(2) 広報活動

- ①財団広報誌「JSF Today の発行」
- ②メールマガジンの発行
- ③「散歩のおとも」(北の丸公園の自然)の販売
- ④名称「科学技術館」及びロゴマーク「JSF」の商標登録
- ⑤「青少年のための科学の祭典」に対する TV 取材・放映
- ⑥科学技術館動画配信
- ⑦財団HPの英語化

(3) その他

- ①勉強会
- ②学会発表等
- ③写真展・観察会の開催
- ④親子を対象としたワークショップの開催
- ⑤21 世紀型科学教育の創造 VII への参加
- ⑥アジア博物館フォーラムへの参加
- ⑦評議員会・理事会における写真展示

5. その他の活動

(1) 叙勲、国家褒章等の候補者推薦

(2) 館施設の活用

- ①催事場
- ②サイエンスホール
- ③会議室

(3) 公益法人制度改革

II. 科学技術振興事業

1. 科学技術理解増進事業

(1) 青少年のための科学の祭典の開催

((独) 科学技術振興機構支援事業、企業・団体の協賛による自主事業)

(2) 映像による科学技術の普及活動

- ① 第 50 回科学技術映像祭の開催 ((財)つくば科学万博記念財団他との共催事業)
- ② 科学技術映像祭の 50 回記念事業の実施 (文部科学省、関係団体との共催事業)

- (3) 地域活動支援事務局業務 (独) 科学技術振興機構受託事業)
- (4) 学習用機器貸出委託業務 (文部科学省受託事業)
- (5) キッズ・フロンティア・ワークショップの開催 ((財) 新技術開発財団受託事業)

2. 科学技術人材育成事業

- (1) サイエンスキャンプ2009の開催 (独) 科学技術振興機構受託事業)
- (2) 生物チャレンジ2009の開催、国際生物学オリンピックへの日本代表派遣の実施
(独) 科学技術振興機構支援事業)
- (3) 物理チャレンジ2009の開催、国際物理オリンピックへの日本代表派遣の実施
(独) 科学技術振興機構支援事業)
- (4) 第20回国際生物学オリンピックの開催 (独) 科学技術振興機構支援事業)
- (5) 第42回国際化学オリンピックの開催 (独) 科学技術振興機構支援事業)
- (6) 日本科学オリンピック推進委員会

3. 調査研究事業

- (1) エネルギー技術の調査研究
 - ① 風力エネルギーシンポジウムの開催
 - ② 日本風力エネルギー事務局業務
 - ③ エネルギー変換懇話会事務局業務
- (2) 平成21年度ジフェニルアルシン酸等の健康影響に関する調査研究業務 (環境省請負事業)

4. その他

- (1) その他の科学技術普及啓発事業

III. 科学技術館事業

1. 科学技術館運営事業

(1) 展示活動

- ① 展示室の整備
- ② 展示の解説および実演
- ③ 入館者の安全管理

(2) 教育普及事業

- ① 科学技術館サイエンス友の会活動

②パソコン道場運営

(3) 連携・交流事業

①企業との連携

②天文・宇宙分野での連携事業

③博物館連携活動

④学校連携

⑤JST 地域連携活動支援

(4) 特別展の開催

①第 50 回科学技術週間

②第 29 回日本自然科学写真展 ―自然の中の不思議を知る―

③第 13 回科学技術館万華鏡ワークショップ

④講演会「国際宇宙ステーション特別企画：宇宙に行こう！」

⑤秋山仁先生のシゼコンかがくラボ ～?でつながる夏休み～

⑥竹とんぼを作って飛ばそう@科学技術館

⑦ウォーターフェア'09 東京 水の展示会

⑧青少年のための科学の祭典 全国大会

⑨「Nature Contact ～みんなで地球の未来を考えよう！」夏のキャンペーン

⑩《科学技術館×栄光ゼミナール》夏休み自由研究お役立ち理科実験教室

⑪夏休み特別展「美を科学する・美—Make 展」

⑫Micro Presence ―昆虫 ミクロ・リアリズム

⑬ワークショップ「ミツバチの今を観察する」

⑭実験ジャー 夏の陣

⑮未来都市 2100 年石炭ランド

⑯ワクエコ・カーモデラー教室

⑰特別教室「サイクルサイエンス教室」 (JKA 補助事業)

⑱第 27 回マイクロマウス東日本地区大会

⑲栄光ゼミナールの出張理科実験教室

⑳生物学者と天文学者が語る「宇宙に住もう!？」

㉑第 40 回市村アイデア賞作品展

㉒ものづくり体験「たたら製鉄実験」イベント

㉓第 10 回日本万華鏡大賞公募展

㉔ミツロウで作る「フローティングキャンドル」ワークショップ

㉕第 9 回「国土交通 Day」図画コンクール・フォトコンテスト入賞作品展示会

㉖けんせつフェスタ 2010

- ⑳第16回原子力ポスターコンクール受賞作品展示
- ㉑第4回高知大学バイオ&アグリ・オープン・スクール「Welcome to 高知サイエンスヴィレッジ」
～高知の自然から、おもしろ科学の贈り物～
- ㉒第53回全国学芸科学コンクール作品展示会
- ㉓ニューロクリアティブ研究会第3回フォーラム「創造する脳 ～未来からの時空を遊ぶ」
- ㉔エコ・エネルギー科学教室
- ㉕科学ライブショー「ユニバース」
- ㉖FOREST イベント

(5) 広報活動

- ①メディア
- ②入館者誘致
- ③入館者状況
- ④展示の特別案内

(6) 巡回展事業

- ①巡回型展示「美を科学する」2の制作 (日本財団助成事業)
- ②展示物等貸出
- ③サイエンスショー、科学演劇の開催
- ④出前実験ショー

(7) 学芸活動

- ①博物館学芸員養成活動
- ②「体験学習」「職場訪問」受入
- ③調査研究活動
- ④学会等発表

2. 企画・コンサルティング事業

(1) 教育・文化関連事業

- ①鳥取市歴史博物館常設展示装置点検業務 ((財)鳥取市文化財団受託業務)
- ②平成21年度環境測定分析環境測定分析統一精度管理調査 情報システムの運用業務
(財)日本環境衛生センター受託事業)
- ③横須賀市浦賀ドックサイエンスイベント (横須賀市受託事業)
- ④(仮称)岡崎市子ども科学館のコンテンツと活動に関する調査研究委託業務 (岡崎市受託事業)
- ⑤青森県立三沢航空科学館メンテナンス業務 (青森県受託事業)
- ⑥東京都水の科学館再整備映像制作業務 (株)乃村工藝社受託業務)
- ⑦大成風のミュージアムリニューアル (大成高校受託事業)

- ⑧山梨県立科学館プラネタリウムの設置業務 (山梨県受託事業)
- ⑨川崎市青少年科学館プラネタリウム開発業務 (川崎市受託事業)
- ⑩沖縄県子供科学力養成塾事業 (沖縄県受託事業)
- ⑪ハンセン病対策事業 (厚生労働省受託業務)

(2) 運営管理・メンテナンス事業

- ①国立ハンセン病資料館運営管理業務

IV. 情報システム事業

- 1. 平成 21 年度科学技術振興に関する開発研究等補助事業 (JKA補助事業)

2. 自主研究開発事業

- (1) 他者とのコミュニケーションを支援する博物館遠隔鑑賞システムの研究開発
- (2) 博物館における教育情報発信に関する研究
- (3) ミュージアムショップのWebショップ化に関する研究開発

3. 受託開発事業

- (1) 情報処理システムの研究開発
- (2) PLMおよびその関連システムの研究開発
- (3) マルチメディア・データベースシステムの研究開発
- (4) 新エネルギーシステムの研究開発
- (5) その他

4. 情報処理サービス事業

アウトソーシングサービス事業

V. 所沢航空発祥記念館運営事業

1. 展示活動

- (1) 展示資料の収集
- (2) 展示の修繕・保守
- (3) 展示の更新

- ① 「大型映像館」 上映フィルムの更新。

(4) 展示資料の貸与

(5) 書籍及び雑誌編集への協力

- ① 7月30日発行のイカロス出版「月刊エアライン」9月号の特集記事「ANA東京～大阪線50周年」の編集に当たり以下の協力を行いました。
- ②書籍編集への協力

2. 特別展等の開催

(1) 特別展の開催

- ①ラ・ビレット展「数あそび&楽しいコンピュータ」の開催
- ②「模型飛行機展示会」の開催
- ③夏休み特別展「生誕200周年記念 ダーウィンが語る進化の歴史」の開催
- ④国際児童年30周年記念イベント
- ⑤ 秋の特別展「翔～日本と中国・台湾とのかけ橋～」の開催
- ⑥春休み特別展
「パイロットにチャレンジ！！ キミもフライトシミュレータを操縦してみよう！」
- ⑦ゴールデンウィーク大型映像フェスティバル
- ⑧夏休み大型映像フェスティバル
- ⑨冬の大型映像フェスティバル
- ⑩春休み大型映像フェスティバル

(2) ミニイベント

- ① 「春の音楽 in 所沢航空発祥記念館」
- ②航空ミニジャンク市
- ③ 「所沢航空ワンコイン寄席」
- ④熱気球から夜景を楽しもう！
- ⑤新春凧工作教室
- ⑥航空演劇「スピードの中身」
- ⑦工作ひろば

(3) 実験ショー

3. 公開講座の開催

- (1) 「ANA、日中友好の翼とアジア路線の展開」
- (2) 「日本大学から生まれた人力飛行機たち～木村秀政関係資料から～」
- (3) 「航空交通管制と東京航空交通管制部施設見学会」

- (4) 「世界一周70周年記念 ニッポン号に秘められたドラマ～小説『翼をください』を語る」
- (5) 「JAL・JAA 機内食の世界～企画から機内サービスまで」
- (6) 「元開発者が語る防衛航空機（適用した平成のハイテクとその技術派生）」

4. 普及啓発活動

- (1) 学習支援プログラムの開始
- (2) キッズ・チャレンジ倶楽部の活動

5. 格納庫・収蔵庫およびYS-11機の特別公開

6. 「県民の日」記念事業

7. 連携活動

8. 航空機インストラクター活動

- (1) 飛行機教室の開催
- (2) 展示航空機保守メンテナンス
- (3) 展示解説
- (4) 「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に対する質問対応
- (5) 講演活動
- (6) T-1B・T-6Gコックピット搭乗体験

9. 広報活動

- (1) 一般広報
- (2) 特別展広報
- (3) 団体誘致活動

10. その他

- (1) 中学校職場体験の受け入れ
- (2) 学校公開における公演への協力
- (3) 航空発祥100周年記念事業
- (4) 入館料の変更
- (5) 臨時開館の実施

11. 入館者数

平成21年度事業報告
資料編
目次

I. 役員会等	11
II. 科学技術振興事業	21
III. 科学技術館事業	29
IV. 情報システム事業	55
V. 所沢航空発祥記念館運営事業	58

I. 役員会等

1. 会議の開催

(1) 理事会の開催

①第 210 回 平成 21 年 6 月 17 日

- ・平成 20 年度事業報告(案)
- ・平成 20 年度決算報告(案)
- ・常任理事委嘱承認の件
- ・評議員委嘱承認の件
- ・平成 21 年度補助事業実施に関する件
- ・平成 21 年度助成事業実施に関する件
- ・公益財団法人の認定を受けること及び平成 21 年度中を目標に申請することについて
- ・財団法人日本科学技術振興財団における最初の評議員の選任方法(案)

②第 211 回 平成 21 年 9 月 18 日

- ・評議員委嘱承認の件
- ・平成 21 年度第 1・四半期事業実施報告

③第 212 回 平成 21 年 11 月 30 日(臨時)

- ・公益財団法人日本科学技術振興財団・定款(案)
- ・評議員選定委員会設置規則(案)
- ・評議員選定委員会の委員(案)

④第 213 回 平成 21 年 12 月 18 日

- ・評議員委嘱承認の件
- ・平成 21 年度第 2・四半期事業実施報告

⑤第 214 回 平成 22 年 2 月 22 日(臨時)

- ・最初の評議員候補者推薦の件
- ・最初の代表理事選任の件
- ・最初の理事長選任の件

⑥第 215 回 平成 22 年 3 月 17 日

- ・平成 22 年度事業計画(案)
- ・平成 22 年度収支予算(案)
- ・評議員委嘱承認の件
- ・公益財団法人日本科学技術振興財団定款(修正案)
- ・公益財団法人日本科学技術振興財団役員及び評議員の報酬及び費用に関する規則(案)
- ・公益財団法人日本科学技術振興財団北の丸科学技術振興会会則(案)

- ・公益財団法人日本科学技術振興財団寄附金等取扱規則（案）
- ・移行認定申請の件
- ・平成 21 年度第 3 ・四半期事業実施報告
- ・評議員選定委員会について報告

(2) 評議員会の開催

①第 66 回 平成 21 年 6 月 17 日

- ・平成 20 年度事業報告(案)
- ・平成 20 年度決算報告(案)
- ・理事選任の件
- ・平成 21 年度補助事業実施に関する件
- ・平成 21 年度助成事業実施に関する件
- ・公益財団法人の認定を受けること及び平成 21 年度中を目標に申請することについて
- ・財団法人日本科学技術振興財団における最初の評議員の選任方法(案)

②第 67 回 平成 21 年 11 月 30 日(臨時)

- ・公益財団法人日本科学技術振興財団・定款（案）

③第 68 回 平成 22 年 2 月 22 日

- ・最初の評議員候補者推薦の件
- ・最初の理事選任の件
- ・最初の監事選任の件

④第 69 回 平成 22 年 3 月 17 日

- ・平成 22 年度事業計画（案）
- ・平成 22 年度収支予算（案）
- ・理事選任の件
- ・公益財団法人日本科学技術振興財団定款（修正案）
- ・公益財団法人日本科学技術振興財団役員及び評議員の報酬及び費用に関する規則（案）
- ・公益財団法人日本科学技術振興財団北の丸科学技術振興会会則（案）
- ・公益財団法人日本科学技術振興財団寄附金等取扱規則（案）
- ・最初の理事選任の件（追加）
- ・最初の監事選任の件（追加）
- ・移行認定申請の件
- ・平成 21 年度第 3 ・四半期事業実施報告
- ・評議員選定委員会について報告

(3) 会長・副会長会議の開催

①第 28 回 平成 21 年 6 月 9 日

②第 29 回 平成 21 年 7 月 27 日

③第 30 回 平成 22 年 3 月 9 日

(4) 三財団連絡会議の開催

平成 21 年 5 月 21 日

(財)大阪科学技術センター、(財)中部科学技術センター、(財)日本科学技術振興財団の近況報告と、今後の連携活動についての会議を開催しました。

(5) 評議員選定委員会の開催

平成 21 年 3 月 5 日

最初の評議員選定委員会を開催。

推薦された評議員候補者案をもとに移行後の最初の評議員を選任しました。

2. 対外機関との連携活動

(1) 賛助員活動

財政基盤の安定を図るため、賛助員の拡大に努めました。

(2) 企業・団体との連携活動

財団全体の窓口として、企業・団体との連携拡大に努めました。

3. 建物および建築設備の維持管理

下記の工事を実施しました。

(1) 空調設備機器の改修

- ・ 1 階催事場 6 号館空調機更新

(2) 空調機等の薬品・高圧水洗浄

- ・ 催事場用空調機 (1～5 号・7～10 号・センターホール)
- ・ 展示棟用空調機 (I 棟 2～5 階)
- ・ 事務棟用空調機 (3 階南側事務室)
- ・ 地下機械室内のターボ冷凍機 (No.2 号機)
- ・ 冷却水管薬品洗浄 (冷却塔からターボ冷凍機まで)
- ・ 冷却塔充填材更生化学洗浄

(3) 空調機等の整備

- ・ 事務棟用 (地下機械室内)
- ・ 展示棟用 (D 棟 2 階、F 棟 2 階)
- ・ L 棟トイレ用排風機
- ・ A 棟トイレ用排風機
- ・ H 棟展示室系統用排風機
- ・ 真空式温水ヒーター

(4) 消防・防災設備の整備

- ・展示棟屋上階非常放送設備
- ・誘導灯設備
- ・ガス漏れ受信機、感知器
- ・防火シャッター、防火戸の煙感知器

(5) 建築設備の整備

- ・自動ドア修理（I棟2階、3階）

(6) 塗装工事の実施

- ・催事場屋根補修塗装（2号館、8号館、10号館）

4. 企画広報活動

(1) 企画活動

①調査事業

1) 平成21年度青少年のための科学の祭典調査

振興事業部と共同して来館者調査票を立案し、青少年のための科学の祭典の来場者及び研修会参加者の意識調査を行いました。

	大人	子ども	出展者	大会別合計
全国大会（8月1日、2日）	479	567	48	1,094
福井大会（11月14日、15日）	87	62	57	206
倉敷大会（11月14日、15日）	165	159	69	393
鹿児島大会（11月21日、22日）	138	193	45	376
合計	869	981	219	2,069

	回答者
全国大会研修会（7月31日）	72

本調査の結果から、祭典全体の満足度等は各大会とも高いですが、演示、実験等を行う各ブースにて、来場者の質問を受ける時間があまり設けられていないことが課題として分かりました。

2) 科学技術館展示室「アトミックステーション ジオ・ラボ」入室者調査

平成21年3月にオープンした科学技術館展示室「アトミックステーション ジオ・ラボ」について、入室者の満足度等を調査しました。難易度の高い内容ですが、展示手法の工夫により満足度が高いことが分かりました。

調査実施日：8月28日、29日、30日

調査場所：「アトミックステーション ジオ・ラボ」入口

調査件数：大人178件 子ども232件

3) 「小学校教員の科学技術リテラシーの修得・リフレッシュの実態把握調査」(渡辺記念会研究助成)

小学校教員が科学技術に関する知識についてどのように修得してきたか、現在修得しているか、さらに学校における理科の授業とどのような関係性があるかを知ることが目的に、全国から無作為抽出した小学校教員等に対してアンケート調査研究を実施しました。回答をいただいた249件のデータを解析した結果、「初等教育、中等教育と課程が上がるにつれ、理科が嫌いになっていくこと」「年齢が上がるにつれて、自然観察、科学館通い、工作作業等の実体験が減っていること」「大学受験では、教員として必要となる科目の勉強より入学試験への「対策」が優先されていること」等が明らかとなりました。これらの結果を踏まえたうえで、「小学校の理科教育に役立つ「プラクティカルな参考資料」の作成と配布」等、「科学技術の智」プロジェクトが今後実施すべきアプローチを提言として報告書にとりまとめ、調査にご協力いただいた小学校教員、科学館・博物館、JST、国立教育政策研究所等関係各所に配布しました。

4) 「科学館における効果的な環境・エネルギー教育プログラムの開発に関する調査研究」(渡辺記念会研究助成)

展示室3F「デンキファクトリー」見学者を対象に、環境・エネルギー教育を効果的に行うための教育プログラム開発、効果測定手法の開発を行い調査研究の成果を報告書としてとりまとめ、調査研究にご協力いただいた科学館・博物館、JST、国立教育政策研究所等関係各所に配布しました。

5) 科学技術館学芸活動紀要の発行

当財団で実施している学芸活動について、財団職員他からよせられた11件の教育研究論文を「科学技術館学芸活動紀要 2009 Vol.1, 3」としてとりまとめ、12月末に発行しました。財団を支援していただいている産業界、官公庁、科学館・博物館、JST、国立教育政策研究所等関係各所に配布しました。

(2) 広報活動

①財団広報誌「JSF Today」の発行

◆112号(H21年4月)特集

- ・科学技術館原子力展示室「アトミックステーション ジオ・ラボ」オープン！

◆113号(H21年7月)特集

- ・科学技術館自動車展示室「ワクエコ・モーターランド」の魅力に迫る！

◆114号(H21年10月)特集

- ・日本財団助成事業「美を科学する」展開催

◆115号(H22年1月)特集

- ・平成21年度沖縄県「子供科学力養成塾事業」スタート

②メールマガジンの発行

毎週水曜日に科学技術館メールマガジンを発行し、財団・科学技術館の情報を配信しました。発刊から

満5周年を迎えることができました。

・227号～276号 会員数 3月現在 8,864名

ケータイメールマガ

情報システム開発部にご協力いただき、3月3日より携帯電話用のメルマガの配信を開始しました。

・1号(3月3日)～5号(3月31日)発行 会員数 3月現在 70名

③「散歩のおとも」(北の丸公園の自然)の販売

21年度(20年度)

草木編 714冊 (584冊)

動物編 320冊 (259冊)

合計 1,034冊 (843冊)

④名称「科学技術館」及びロゴマーク「JSF」の商標登録

名称「科学技術館」及びロゴマーク「JSF」について、商標登録をしました。

<商標登録>

*商標 科学技術館(名称)

第16類、第25類、第35類、第41類、第42類、第43類

*商標 財団マーク(JSF)

第16類、第25類、第41類、第42類、第43類

※第16類(書籍、印刷物、写真、文房具等)、第25類(衣服等)、第35類(ミュージアムショップ)、第41類(知識の教授、セミナーの企画・運営または開催、図書および記録の供覧、興業の企画・運営または開催、教育・文化ビデオの作成等)、第42類(電子計算機のプログラム設計・作成または保守、電子計算機の貸与等)、第43類(会議室の貸与、展示施設の貸与、飲食物の提供等)

⑤「青少年のための科学の祭典」に対するTV取材・放映

「青少年のための科学の祭典」について、TV取材・放映について対応し、以下の番組で紹介されました。

・8月1日12:00～ NHK「ニュース」

・8月29日22:00～ TBS「ニュースキャスター」

・NHK 地方局の地域ニュース枠にて放送

⑥科学技術館動画配信

科学技術館事業部、情報システム開発部と連携し「青少年のための科学の祭典全国大会」並びに8月7日～31日まで館内で開催された特別展「美を科学する・美-Make展」の動画配信を行いました。

⑦財団 HP の英語化

財団 HP 英語版を作成し、5 月から公開しました。

(3) その他

①勉強会

●平成 21 年度第 1 回

当財団が平成 21 年 4 月から「国立ハンセン病資料館」の運営管理を開始したことから、科学技術館、国立ハンセン病資料館、相互のスタッフの理解・交流を図るべく勉強会を開催しました。

開催日：4 月 13 日(水)

講義内容：

- ・科学技術館の展示・教育普及活動(展示、サイエンス友の会、学校連携等)
- ・展示の企画・製作、外部文化施設のコンサルティング業務
- ・青少年のための科学の祭典
- ・サイエンスキャンプ
- ・ユビキタス社会における生涯学習機関での情報機器のあり方に関する調査研究
- ・簡易放射線測定器「はかるくん」事業
- ・科学技術館の来館者動向(アンケート調査の結果より)
- ・国立ハンセン病資料館の活動紹介

●平成 21 年度第 2 回

社会教育調査の実務について勉強会を開催しました。

開催日：10 月 1 日

講義内容：「社会調査概論 ー実務で必要な社会調査の基礎ー」

講師：東京大学大学院教育学研究科 特任助教 小山治先生

②学会発表等

1) 日本ミュージアムマネジメント学会賞受賞

日本ミュージアムマネジメント学会第 10 回大会(6 月 6 日)にて、当財団の中村主任が学会賞を受賞しました。受賞理由は学会誌投稿論文「博物館におけるデジタル映像技術の導入の現状と課題に関する調査研究」の研究内容の先進性です。本研究は平成 18 年度日本自転車振興会(現：JKA)の補助金を受けて実施したものです。

2) 日本ミュージアムマネジメント学会第 10 回大会における研究発表

平成 20 年に実施した来館者調査を踏まえ、「科学的リテラシー育成に関する科学館・博物館の影響について ー科学技術館来館者調査結果よりー」と題して研究発表しました。

3) 日本科学教育学会第 33 回年会

8月25日・26日に同志社女子大学で開催された日本科学教育学会第33回年会にて、平成20年に実施した青少年のための科学の祭典の来場者調査について、『「青少年のための科学の祭典」来場者に見られる科学技術に対する意識、理科を学ぶ意義と科学的リテラシー自信度との関係について』と題して研究発表を行いました。また、国立科学博物館、名古屋市科学館と共同で実施したワークショップ開発についても「科学系博物館における科学リテラシー涵養のための学習支援活動の取り組みー国立科学博物館幼児向け学習プログラムを事例にー」と題して、ポスターセッションにて発表を行いました。

4) 日本ミュージアムマネジメント学会基礎部門研究部会

2月13日に東京都美術館で開催された日本ミュージアムマネジメント学会基礎部門研究部会において、「来館者の科学リテラシーを涵養する博物館運営」と題し、当財団で行っている来館者調査、昨年開催した美の特別展等をベースに、科学技術リテラシーの育成と博物館リテラシーの醸成の在り方について、ファミリーリテラシーの視点から提言しました。

5) 日本ミュージアムマネジメント学会実践部門研究部会に対する協力

3月13日に科学技術館で開催された日本ミュージアムマネジメント学会実践部門研究部会「科学技術系博物館におけるミュージアムグッズを探究する」について開催・運営について協力しました。

③写真展・観察会の開催

科学技術館メールマガジン「自然と友だち」に執筆していただいている永井昭三先生が、平成21年度の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞されたことを記念して、科学技術館事業部の協力を得て写真展を開催しました。

タイトル：「北の丸公園 実りの秋」

開催期間：10月24日(土)～11月8日(日)

開催場所：科学技術館4階ギャラリー(ロビー)

また11月1日(日)には、サイエンス友の会と共同で「自然と友だち・自然観察会」を開催し、35名の方が集まり、永井先生から北の丸公園内の樹木、草花、ドングリ等について直接ご指導をいただきました。

④親子を対象としたワークショップの開催

科学リテラシー涵養活動の一環として、国立科学博物館、名古屋市科学館と共同で、日常生活にひそむ化学変化をテーマにワークショップを開催しました。

タイトル：「あれもこれもカガクヘンカ ～化学でつながる身近な生活～」

開催日時：11月21日(土)11時～、13時30分～ (各回90分)

開催場所：科学技術館4階ギャラリー(ロビー)

参加者数：15 家族、計 43 名

⑤21 世紀型科学教育の創造 VII への参加

博物館関係者有志によって毎年開催されている「21 世紀型科学教育の創造」ワークショップが、本年は科学技術館を会場として開催され、グループリーダーとして参加しました。

タイトル：21 世紀型科学教育の創造 VII ～社会につながる科学教育～

開催日：12 月 6 日(土)、7 日(日)

開催場所：科学技術館 6F 会議室

⑥アジア博物館フォーラムへの参加

3 月 21 日に東京国立博物館で開催されたアジア博物館フォーラムへ参加しました。平成 21 年 12 月に国立科学博物館でアジア地域会合 (ICOM-ASPAC 日本会議) が開催され、アジアの博物館連携の必要性、重要性が再認識されました。これを踏まえ平成 22 年 11 月には、中国・上海で国際博物館会議 (ICOM) 上海大会が開催されます。このような状況を踏まえ、アジアの博物館の中核をなす中国・韓国・日本が連携し、アジア博物館学会を設立する構想が示されました。

⑦評議委員会・理事会における写真展示

3 月 17 日に開催された評議委員会・理事会にて、平成 21 年 10 月から 11 月にかけて開催した「北の丸公園 実りの秋」写真展の写真を展示しました。

5. その他の活動

(1) 叙勲、国家褒章等の候補者推薦

①平成 21 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)

永井 昭三 科学技術館サイエンス友の会非常勤講師

(2) 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を新技術の普及の場として運営しております。

本年度の主な出展、利用件数は次のとおりです。

①催事場

- ・青少年のための科学の祭典
- ・NHK 学園 生涯学習書道展
- ・法務省 全国矯正展
- ・夏休み 子どもバイオ実験教室
- ・特許・情報フェア
- ・弦楽器フェア

他 78 件 合計 84 件

②サイエンスホール

- ・ 科学技術映像祭
- ・ 世界禁煙デー シンポジウム
- ・ 中学校理科研究発表会
- ・ 日本風力エネルギーシンポジウム
- ・ 環境研究セミナー

他 232 件 合計 237 件

③会議室

- ・ 風力発電システム技術講習会
- ・ 国際情報分析セミナー
- ・ 夏休み親子体験学習会
- ・ 原子力体験セミナー
- ・ 安全安心な学校づくりセミナー

他 842 件 合計 847 件

(3) 公益法人制度改革

①平成 21 年 6 月 17 日に開催の第 66 回評議員会及び第 210 回理事会にて、「公益財団法人の認定を受けること及び平成 21 年度中を目標に申請すること」について議決しました。

②平成 21 年 6 月 17 日に開催の第 66 回評議員会及び第 210 回理事会で議決された「財団法人日本科学技術振興財団における最初の評議員の選任方法」について、整備法第 92 条の規定に基づき、平成 21 年 7 月 16 日に文部科学省及び経済産業省へ認可申請書を提出し、平成 21 年 8 月 17 日に認可を得ました。

③平成 21 年 11 月 30 日に臨時評議員会を開催し、公益財団法人日本科学技術振興財団・定款(案)を審議しました。また同日臨時理事会を開催し、公益財団法人日本科学技術振興財団・定款(案)を議決、評議員選定委員会設置規則(案)、評議員選定委員会の委員(案)を承認しました。

④平成 22 年 2 月 22 日に臨時評議員会を開催し、移行後の最初の理事、監事の選任をするとともに、移行後の最初の評議員候補者(案)を作成、推薦しました。また同日臨時理事会を開催し、移行後の最初の代表理事、理事長を選任、また移行後の最初の評議員候補者(案)を作成、推薦しました。

⑤平成 22 年 3 月 5 日、最初の評議員選定委員会を開催し、推薦された評議員候補者(案)をもとに移行後の最初の評議員を選任しました。

⑥平成 22 年 3 月 17 日、第 69 回評議員会を開催し、定款の変更(案)、公益財団法人日本科学技術振興財団・役員及び評議員の報酬及び費用に関する規則(案)、公益財団法人日本科学技術振興財団・北の丸科学技術振興会会則(案)、公益財団法人日本科学技術振興財団・寄附金等取扱規則(案)を承認し、移行後の最初の理事、監事を選任しました。また同日第 215 回理事会を開催し、定款の変更(案)、

公益財団法人日本科学技術振興財団・役員及び評議員の報酬及び費用に関する規則(案)、公益財団法人日本科学技術振興財団・北の丸科学技術振興会会則(案)、公益財団法人日本科学技術振興財団・寄附金等取扱規則(案)を承認しました。

本評議員会、理事会において認定申請書提出の承認を受けました。

II. 科学技術振興事業

本事業は、科学技術の振興に役立つ諸活動を展開していく事業です。

青少年のための科学の祭典、サイエンスキャンプ、ボランティア支援等の科学技術理解増進事業を推進するとともに、科学技術人材育成やエネルギー技術に係わる調査研究事業等の普及啓発事業を行いました。今年度実施した主な事業は次のとおりです。

1. 科学技術理解増進事業

(1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

(独)科学技術振興機構支援事業、電気事業連合会等協賛事業)

科学技術振興機構の全国規模ネットワーク支援および電気事業連合会、中外製薬の協賛により全国大会を実施するとともに、財団が開催ノウハウの提供・指導や資金的な分担を行っている自主大会が実施されました。

<全国大会>	7月31日～8月2日	科学技術館（東京都）	19,954人
<自主大会>	参加者	合計	344,349人
北海道			31大会
東北	青森・宮城・秋田・山形		4大会
関東甲信越	茨城・千葉・神奈川・東京・山梨・長野・新潟		24大会
東海・中部	静岡・愛知・岐阜・三重・富山・福井		12大会
近畿	滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・兵庫		14大会
北陸・中国	島根・岡山・広島・山口		7大会
四国	徳島・香川・愛媛		5大会
九州	長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島		8大会

(2) 映像による科学技術の普及活動

① 第50回科学技術映像祭の開催 (つくば科学万博記念財団他との共催事業)

科学技術映像祭は、優れた科学技術に関する映像を推奨し、科学技術の普及と向上を図ることを目的とするもので、当財団と(財)つくば科学万博記念財団、(社)映像文化製作者連盟の3者共催により実

施しました。応募された 76 作品(映画 41 本、テレビ番組 33 本、マルチメディア 2 本)のうち下記の優秀作品 15 本を推奨しました。

4月17日に科学技術館サイエンスホールで表彰式を開催すると共に、16・17日の両日、入選作品の上映会を行いました。引き続き全国13ヵ所が入選作品の上映会を行いました。

◆内閣総理大臣賞(1 作品)

ポピュラーサイエンス部門

・テレビ 黒い樹氷～自然からの警告～

企画・制作 アール・ケー・ビー毎日放送(株)

◆文部科学大臣賞(6 作品)

科学教育部門 1 作品

科学技術部門 1 作品

医学部門 1 作品

ポピュラーサイエンス部門 2 作品

マルチメディア部門 1 部門

◆部門優秀賞(8 作品)

科学教育部門 1 部門

基礎研究部門 1 部門

科学技術部門 2 部門

医学部門 1 部門

ポピュラーサイエンス部門 3 部門

② 科学技術映像祭の 50 回記念事業の実施 (文部科学省他との共催事業)

「科学技術週間&科学技術映像祭 50 回記念イベントとして、4 月 18 日に、記念シンポジウム『映像からみえる科学技術』を写真家栗林慧氏の特別講演「虫の目線からの世界」とパネルディスカッション「映像からみえる科学技術—過去・現在・未来—」を開催し、科学技術映像の効果、活用面の課題等について討論が行われました。

4月13日～17日に明治大学において『科学技術映像上映会』を開催し、科学技術映像祭で受賞した36作品の上映を行いました。

また、記念企画とし冊子『私が選ぶ科学技術映像ベスト5』を作成し、科学技術週間関連イベントに活用しました。

(3) 地域活動支援事務局業務 ((独) 科学技術振興機構受託事業)

「地域活動支援」において、活動を実施する機関・団体または個人が単独または他機関と連携して実施する活動の支援において必要な運用・調達経費の執行、活動報告書の回収等事務局業務を

行い理解増進活動を支援しました。

支援企画数は247、活動数としては、1,542件を支援しました。

(4) 学習用機器貸出委託業務 (文部科学省受託事業)

本事業は、文部科学省研究開発局開発企画課立地地域対策室から受託した業務です。一般市民及び小・中・高等学校等の団体を対象に簡易放射線測定器「はかるくん」を無料で貸出し、それを用いた身の回りの放射線測定等を通して、放射線の存在を身近に実感してもらうことにより、放射線に関する知識の普及と理解増進を図るものです。

平成12年度から18年度まで受託していた自然環境・放射線Web事業及び平成19、20年度の本事業における簡易放射線測定器「はかるくん」の利用実績や、先生方のネットワークを活用し年間貸出し目標を24,500台に設定しました。3月末時点の実績値は26,791台であり、目標値を上回る結果を残すことができました。また、簡易放射線測定器「はかるくん」を用いた説明会を、学校や地方科学館等において実施し、放射線に関する基礎知識と「はかるくん」の貸出し制度の普及に努めました。

また、本事業では、事業評価委員会及び教材検討・研究作品審査委員会を組織し、事業内容評価及び教材検討・実践研究作品審査を行い、報告書を取りまとめました。

(5) キッズ・フロンティア・ワークショップの開催 ((財)新技術開発財団との共催)

「キッズ・フロンティア・ワークショップ かがく・夢・あそび ―コピー機の大解剖―」を熊本県熊本市熊本大学黒髪キャンパス、科学技術館において開催しました。また、第40回市村アイデア賞表彰式を11月20日(金)にサイエンスホールにて受賞者、保護者、引率の先生をご招待して実施しました。

2. 科学技術人材育成事業

(1) サイエンスキャンプ2009の開催 ((独)科学技術振興機構受託事業)

次代を担う高校生、高等専門学校生(1～3年)に、科学技術を身近なものと感じてもらうため、科学技術体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ2009」を夏休み、冬休み及び春休みに開催しました。

広報活動として募集要項、チラシ等を作成し、全国の高等学校及び高等専門学校へ送付すると共に、ホームページ等での広報を行いました。

その結果、大学、公的研究機関、民間企業の79会場で科学技術体験合宿が開催され、3,332名の応募者があり、選考の結果、1,054名が参加して最先端の科学技術の現場を体験しました。

◆サマー・サイエンスキャンプ

(会場数 49 応募者数 1,652名 参加者数 620名)

国公立大学 7会場

私立大学 6会場
公的研究機関 33会場
企 業 3会場

◆ウインター・サイエンスキャンプ

(会場数 11 応募者数 545名 参加者数 174名)

国公立大学 7会場
私立大学 2会場
公的研究機関 2会場

◆スプリング・サイエンスキャンプ

(会場数 19 応募者数 1,135名 参加者数256名)

国公立大学 5会場
私立大学 5会場
公的研究機関 3会場
企 業 6会場

(2) 生物チャレンジ2009の開催、国際生物学オリンピックへの日本代表派遣の実施

((独)科学技術振興機構支援事業)

● 第20回国際生物学オリンピック (IBO2009) 日本代表の派遣

初めての日本開催となる第20回国際生物学オリンピックは、2009年7月12～19日につくば市で開催され、日本から4名の日本代表が参加しました。日本代表の成績は金メダル1名、銀メダル3名であり、国際生物学オリンピック初の金メダルを獲得することができました。日本代表団は、選手4名のほか大学教授・高校教諭からなるチームリーダー2名、オブザーバー3名の計9名によって構成されました。

◆第20回国際生物学オリンピック日本代表と成績

金メダル	大月 亮太	千葉県立船橋高等学校 (千葉県)	3年
銀メダル	中山 敦仁	灘高等学校 (兵庫県)	2年
銀メダル	谷中 綾子	桜蔭高等学校 (東京都)	2年
銀メダル	山川 真以	桜蔭高等学校 (東京都)	3年

● 全国生物学コンテスト「生物チャレンジ2009」の開催

平成22年7月に韓国で開催される「第21回国際生物学オリンピック (IBO2010)」に派遣する日本代表選考を兼ねた全国生物学コンテスト「生物チャレンジ2009」の第一次試験を、平成21年7月19日に全国47都道府県81カ所 (前年は66カ所) の大学、高等学校を会場に実施しました。生物チ

チャレンジ2009には2,693名(前年2,482名)からの参加申し込みがありました。

第一次試験の結果から選抜された成績優秀者72名に対し、平成21年8月17日～20日の3泊4日の合宿形式による第二次試験を広島大学において開催しました。

最終選考となる代表選抜試験は、11月23日に科学技術館を会場に実施し、第一次、第二次試験により選抜された高校2年生以下の15名が挑戦しました。その結果、国際生物学オリンピック日本委員会による日本代表選考会議を経て第21回国際生物学オリンピック日本代表4名が決定しました。その後4名は、国際大会の課題に対応するために冬休み、春休み、ゴールデンウィークそして6月中旬の計4回の特別教育を受け2010年7月の韓国大会に臨みます。

◆第21回国際生物学オリンピック日本代表(氏名50音順)

栗原 沙織	北海道札幌西高等学校(北海道)	2年
坂本 莉沙	渋谷教育学園渋谷高等学校(東京都)	3年
三上 智之	ラ・サール高等学校(鹿児島県)	2年
水口 智仁	開成学園開成高等学校(東京都)	3年

(3) 物理チャレンジ2009の開催、国際物理オリンピックへの日本代表派遣の実施

((独)科学技術振興機構支援事業)

●第40回国際物理オリンピック(IPhO2009)日本代表の派遣

メキシコ/メリダ市で2009年7月11～19日に開催された第40回国際物理オリンピックに、第4回全国物理コンテスト物理チャレンジ2008から選抜された日本代表5名を派遣しました。この大会には世界72カ国・地域から317名の生徒の参加があり、日本代表は金メダル2名、銀メダル1名、銅メダル2名と全員がメダルを獲得するという好成績を収めることができました。

◆第40回国際物理オリンピック日本代表と成績

金メダル	蘆田 祐人	慶應義塾高等学校(神奈川県)	3年
金メダル	東川 翔	茨城県立水戸第一高等学校(茨城県)	3年
銀メダル	難波 博之	岡山県立岡山朝日高等学校(岡山県)	3年
銅メダル	安藤 孝志	愛知県立旭丘高等学校(愛知県)	3年
銅メダル	横田 猛	西南学院高等学校(福岡県)	3年

●第5回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2009」の開催

平成22年7月にクロアチアで開催される「第41回国際物理オリンピック(IPhO2010)」に派遣する日本代表選考を兼ねた、第5回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2009」を開催しました。

全国から897名(前年769名)の参加申し込みがあり、平成20年6月14日に高等学校・大学等67会場で実施した第1チャレンジ理論問題コンテストには、809名(前年653名)が受験しました。

第1 チャレンジ実験課題レポートは、5月25日の締切りまでに794名（前年549名）から提出がありました。理論問題コンテストと実験課題レポートの総合評価から第2 チャレンジに進む107名を選抜しました。

第2 チャレンジは、平成21年8月2日～5日に3泊4日の合宿形式で茨城県つくば市にて開催し、ここでの成績優秀者のうち IPhO2010 への参加資格を有する高校2年生以下の生徒14名を日本代表候補者として選出しました。

日本代表候補に対しては、インターネットを利用した「理論問題通信添削」、冬休みの「実験実習合宿研修」等の教育研修を行い、春休みに合宿形式の「最終選考試験」を実施しました。それら教育研修と最終選考試験の成績を総合的に判定評価して5名の日本代表を選考しました。

◆第41回国際物理オリンピック日本代表（氏名50音順）

澤 優維	灘高等学校（兵庫県）	3年
濱崎 立資	栄光学園高等学校（神奈川県）	3年
益田 稜介	大阪星光学院高等学校（大阪府）	3年
真野 絢子	南山高等学校女子部（愛知県）	3年
山村 篤志	灘高等学校（兵庫県）	2年

(4) 第20回国際生物学オリンピックの開催

2009年7月に第20回国際生物学オリンピック（IBO2009つくば）が日本で開催されることを受けて、「国際生物学オリンピック2009組織委員会」（委員長：井村裕夫）を組織し、当財団は主催者の一員として構成メンバーに入りました。

7月12～19日に茨城県つくば市で開催される第20回国際生物学オリンピックは、代表選手参加国56ヶ国・地域、オブザーバー参加国3ヶ国、代表選手221名、ジュリー／オブザーバー214名の参加登録があり、下記の代表選手団の大会期間中の日程に従い、事前準備を進めました。

- 7月12日（日）参加登録、オリエンテーション
- 7月13日（月）開会式、ウエルカムパーティー、実験試験会場視察
- 7月14日（火）実験試験、おりがみナイト
- 7月15日（水）エクスカーション（つくばサイエンスツアー）
- 7月16日（木）理論試験、つくばナイト
- 7月17日（金）エクスカーション（日光）
- 7月18日（土）エクスカーション、講演会、表彰式・閉会式、
フェアウエルパーティー
- 7月19日（日）選手団解散

また、普及広報活動の一環として4～6月にかけて中学生以下を対象とした「さかなクンぬり絵コンテスト」、高校生を対象とした「全国高校生レシピコンテスト」を実施しました。「さかなクンぬり絵コンテスト」には2,081作品の応募があり、4月25日及び5月2日に海遊館で表彰式を実施しました。「全国高校生レシピコンテスト」には659作品の応募があり、6月7日に中川学園調理技術専門学校で決勝大会及び表彰式を実施しました。

大会当日の試験実施では、高いレベルの生物学に関する実験課題試験と理論課題試験(筆記試験)の総合成績を判定した結果、23名に金メダル、46名に銀メダル、68名に銅メダルが授与されました。国際生物学オリンピックへの参加が5回目となる日本代表は、大月亮太さん(千葉県立船橋高等学校3年)が、日本初となる金メダルを受賞し(金メダル1名、銀メダル3名)、また、参加した代表生徒全員のメダル受賞も3年連続となりました。

国際生物学オリンピック2009組織委員会の井村 裕夫委員長は大会の総評を次のように述べています。「過去最高となる世界56の国と地域から221名の生物学の英才が一堂に集い、知識や技能の研鑽だけでなく、友情も育み、素晴らしい成果を挙げたことに大きな喜びを感じています。生命科学の重要性が叫ばれる今、代表生徒全員がこの大会を通じて成長していく様子を目の当たりにし、未来の生命科学を支える人材が輩出されるという確信を持つようになりました。この代表生徒の活躍に触発され、今後、さらに多く生徒が生物学に関心を持ち、情熱を持って挑戦してくれることを大いに期待します」

11月20日に第3回募金委員会、12月4日に組織委員会総会を開催し、収支決算状況及び剰余金の取り扱いについて審議しました。収支決算は承認され、剰余金は生物学オリンピックの発展のために活用することで承認されました。

(5) 第42回国際化学オリンピックの開催

2010年7月に第42回国際化学オリンピック大会が日本で開催されることを受けて、化学にかかわる産・官・学の連携のもとに実行母体として「化学オリンピック日本委員会」(委員長:野依良治)を組織し、当財団は主催者の一員として構成メンバーに入りました。

5月19日に第8回財務委員会、5月25日に第8回運営幹事会、6月4日に第6回組織委員会を開催し、2008年度収支決算、2009年度予算案、新型インフルエンザ対応指針案等について審議を行いました。

Catalyzerの第1号を発行し、7月18日から開催された英国大会の参加国に配布しました。

7月26日には海外向けに英語版公式WebSiteを開設しました。

8月26日には英国大会視察報告会を開催し、運営上の問題点や今後の進め方について議論しました。

10月26日に第10回財務委員会、11月27日に第11回財務委員会を開催し、2009年度上期予算執行状況及び9月末棚卸資産を確認しました。また、2009年度下期予算の見直し及び2010年度予

算案の検討を行いました。

12月3～6日にはSteering Committeeを開催し、来日したSCメンバー15名に対して来年の日本大会で使用する宿泊施設及び試験会場の視察を行いました。

1月20日に第12回財務委員会、3月15日に第11回運営幹事会、4月2日に組織委員会を開催し、2009年度予算見込み、2010年度予算案および各委員会の活動状況を確認しました。

準備問題（筆記31題、実験9題）を2月にホームページで公開するとともに、実験問題に関する検証実験を3月16日に実施しました。

広報活動の一環として試験会場最寄駅（駒場東大前、西早稲田、早稲田）にICh02010の看板を設置しました。各国の参加状況は、正式参加が70カ国、オブザーバー参加が4カ国であります。

(6) 日本科学オリンピック推進委員会事務局業務

国を挙げて、科学オリンピックを通して世界に挑戦する子どもたちを応援し、各オリンピックの活動を支援していくことを目的に、「日本科学オリンピック推進委員会（JSOC）」（会長：江崎玲於奈）を組織し、当財団はこの委員会の運営事務局を担当しています。

各科学オリンピック日本委員会と産官学が連携をとりつつ参加者の拡大や認知度の向上を目指し、広報活動の一環としてホームページによる国内大会参加者募集案内等の広報活動を行いました。

また、広報活動の一環として2010年開催の国際化学オリンピック日本大会のPRを兼ね、科学技術振興機構と共同して、9月22日に明治大学リバティタワーで小学5・6年生・中学生とその保護者を対象に、セミナーとワークショップからなる「科学オリンピック・フェア」を開催しました。

10月31日～11月3日には、サイエンスアゴラ2009の開催期間にあわせて、科学技術振興機構と共同し、各オリンピック事務局のブース出店からなる科学オリンピック村の運営及び11月1日には広中平祐氏を特別ゲストに迎えて「国際科学オリンピック・フォーラム」を実施しました。

2月22日に運営協議会、3月10日に理事会を開催し、各科学オリンピックの活動状況、第20回国際生物学オリンピックの開催報告、第42回国際化学オリンピックの準備状況およびJSOCの活動状況を確認し、現状の課題等について討議を行いました。

3. 調査研究事業

(1) エネルギー技術の調査研究

- ① 第31回風力エネルギー利用シンポジウムの開催（日本風力エネルギー協会との共催）

11月26日・27日、「第31回風力エネルギー利用シンポジウム」を開催しました。今年のシンポジウムは依頼講演（10件）、国内研究者による学術発表（59件）が行われ、参加者は300名でした。

- ② 日本風力エネルギー協会の事務局活動

風力エネルギー利用促進のため「日本風力エネルギー協会」の事務局を担当し、共同で事業を進

めました。

③ エネルギー変換懇話会の事務局活動

エネルギー技術の発展に寄与するため「エネルギー変換懇話会」の事務局を担当し、共同で事業を進めました。

(2) 平成21年度ジフェニルアルシン酸等の健康影響に関する調査研究業務 (環境省請負事業)

本調査研究において、ジフェニルアルシン酸等による健康影響の発生のメカニズム及び治療法等を含めた症候及び病態の解明を行い、健康被害にあった方々の健康状態の改善と不安の解消を行うとともに、今後同様の被害が発生した際に迅速な対応を行うための知見の集積を行いました。

4. その他

(1) その他の科学技術普及啓発事業

① 科学技術団体連合への協力

科学技術団体連合の会長団体として、加盟団体と共に科学技術週間の各種行事に協力しました。

② 「第40回市村アイデア賞」事業への後援

平成21年11月20日に科学技術館で実施された財団法人新技術開発財団が主催する「第40回市村アイデア賞」への後援団体として協力しました。

③ 「第53回全国学芸科学コンクール」((株)旺文社主催)への協力

(株)旺文社が主催する「第53回全国学芸科学コンクール」科学分野の最優秀作品1点に日本科学技術振興財団会長賞を授与しました。

④ 「第9回科学教育ボランティア研究大会」への後援

平成21年12月19日～20日に静岡科学館る・く・るで実施された科学教育ボランティア研究大会実行委員会が主催する「第9回科学教育ボランティア研究大会」への後援団体として協力しました。

Ⅲ. 科学技術館事業

科学技術館の整備拡充を図り、広範な層に科学技術への興味や関心を高めてもらうための展示活動を行いました。その他、サイエンス友の会活動や特別展を開催し、特に次世代を担う青少年に対し科学技術に親しみ、科学する心を培う環境づくりを総合的に展開しました。

また、国・地方自治体、企業等が施工する博物館、科学館等教育文化施設の建設に際し、基本構想の策定から設計、製作、施工監理ならびに設置後における運営等について総合的なコンサルティング業務を実施しました。

1. 科学技術館運営事業

(1) 展示活動

① 展示室の整備

入館者が楽しみながら最良の状態で見学ができるよう、展示品の修理、改善を行い、展示室の整備とサービスの向上に努めました。

② 展示の解説および実演

展示を楽しみながら理解できるよう次の展示室で、実験の先生、インストラクターによる演示、実験を行いました。(イリュージョン、ワークス、オプト、シンラドーム、建設館、NEDO、鉄の丸公園 1 丁目、ガスクエスト、DENKI FACTORY、アトミックステーション ジオ・ラボ、ワクエコ モーターランド)

③ 入館者の安全管理

財団内に設置された CS 委員会と連携して、入館者からの苦情・意見への対応を進め、入館者が安全かつ安心して見学できる環境作りを進めました。

(2) 教育普及事業

① 科学技術館サイエンス友の会活動

小学3年生以上の青少年を主な対象として、科学技術に対する関心を高め、理解を深める機会を提供するため、「サイエンス友の会」を組織し、会員制による各種教室を開催しました。平成21年度は第46期を迎え、会員数は2,171名でした。会員の内訳、行事開催回数、参加者数は次の通りです。

1) 会員数

(単位：人)

		男	女	合計
会 員	保護者	281	496	777
	被保護者	720	491	1,211
準会員		87	96	183
合 計		1,088	1,083	2,171

2) 行事内容、参加者数

(単位：回/人)

行事名	開催回数	内容	参加人数
工作教室	112	Let's ピアノの製作、木遊びクラブ、お気にいり万華鏡、光のオブジェ 等	1,766
実験教室	139	魚の骨を観察しよう、シャボン玉の科学、光の屈折と偏光、電気の基礎…オームの法則・電力 等	2,148
数学教室	17	ハーモノグラフを作ろう、コンパスと定規による作図、駒並べゲームを作ろう 等	237

自然観察 教室	28	北の丸の自然に親しむ、高尾山の自然観察、 冬の高原で体感する自然、天体観察会 等	437
施設見学会	11	筑波宇宙センター、味の素（株）実験教室&川崎工場、花王工 場 等	334
パソコン 教室	40	GIFアニメーションを作ろう、カレンダーを作ろう、 3次元グラフィックを使ったアニメーション作り 等	693
レオナルド・ ダ・ヴィンチ 教室	27	レオナルド・ダ・ヴィンチ教室 第1期、第2期、第3期	78
特別教室	21	サイクルサイエンス教室、 ものづくり体験—たたら製鉄実験イベント 等	438
合 計	395		6,131

②パソコン道場運営

コンピュータを活用できる人材を育成するため、科学技術館4階「パソコン道場」において各種パソコン講習会の開催、教育ソフトの体験型展示などを行いました。

1)パソコン講習会の開催

- ・先生のためのパソコン教室(43回開催、延べ163名参加)
内容：実践ワード講座、実践エクセル講座、インターネット講座、デジタルカメラ活用講座、ホームページ作成講座、実践パワーポイント講座
対象：幼稚園、小中高等学校の教職員および教育関係者
- ・一般社会人向けパソコン講習会(703回開催、延べ3,535名参加)
内容：はじめてのパソコン(タッチタイピング、マウス操作、キーボード操作、メール入門、ホームページ入門、ワード入門、エクセル入門、USBメモリの使い方、ブログ作成、デジカメ初歩、写真の加工、名刺の作成、案内状の作成)、一日講座(ワード、エクセル、デジタルカメラ活用)、年賀状作成、無料講習会
- ・外部との共催教室：JR東日本ジパング倶楽部、(社)日本セカンドライフ協会
対象：主にパソコンを初めて使う一般社会人
- ・千代田区役所OA研修(8回開催、延べ78名参加)
対象：千代田区役所職員対象
- ・サイエンス友の会パソコン教室の開催(左記友の会参照)

2) 教育ソフトの展示コーナーの運営

家庭や学校で使える教育ソフトを集め、パソコン教室に隣接した体験展示コーナーにおいて公開しました。

3) パソコン道場ニュースの発行

パソコンに関する情報、パソコンQ&A、教育ソフト・講習会の紹介などを掲載し、年5回(7,500部/1回)発行しました。東京都内の区・市役所の生涯学習課窓口、生涯学習情報コーナー等に配布しました。

③DVD-ROM コンテンツ「深海の不思議」の制作 (日本宝くじ協会助成事業)

本事業では、「独立行政法人海洋研究開発機構」の協力を頂き日本が世界の先端を走る研究分野を題材に、研究成果と生物多様性や圧力の世界等、一般に広く科学知識普及に貢献できるコンテンツを制作し、全国の博物館、図書館、水族館等へ配布を行いました。

配布先：博物館 212館、図書館 651館、水族館 69館 合計 932

(3) 連携・交流事業

①企業との連携

1) 日本IBM Try Science 実験教室の開催 (日本IBM(株)との共催事業)

世界的な子供たちの科学・理科離れの傾向を改善するため、IBMとニューヨーク・ホール・オブ・サイエンス(NYHOS)、ならびに科学技術センター協会(Association of Science - Technology Centers : ASTC)のパートナーシップによって共同制作・運営されているTry Science プロジェクトの日本での展開として、子供達にとってより親しみやすく、科学に対する興味を喚起できるものとするため、科学技術館で毎月1回、日本IBM社会貢献ボランティアによる実験教室を開催しました。また地方の科学館などでの開催のサポートを行いました。

開催日：4月12日、5月17日、6月14日、7月12日、8月23日、9月13日、10月18日、11月15日、12月13日、
1月17日、2月7日、3月14日

②天文・宇宙分野での連携事業

1) 米国Yerkes 天文台との協力

原則として毎月第2・第4土曜日の科学ライブショー「ユニバース」に、ヤーキス天文台で撮像した天体写真をリアルタイムで送って頂き、天文台スタッフによるインターネット会議で紹介・解説しました。

2) 世界天文年2009への参加

世界天文年2009(International Year of Astronomy 2009: 略称 IYA2009)を記念したイベントを開催しました。

・世界中で宇宙を観ようよ100時間 (IYA2009 公認イベント)

4月4日に「世界各地の星空を東京で見よう」として、アメリカ合衆国・ヤーキス天文台からの中継

に加え世界各地に設置された遠隔操作カメラからの映像を紹介し、地球の自転と昼夜の関係、さらに地球が宇宙に浮かぶ惑星であることを実感する特別番組科学ライブショー「ユニバース」を4階B室シンラドームにて行いました。

・日本天文学会 世界天文年 全国同時七夕講演会

7月4日の科学ライブショー「ユニバース」を特別番組の全国同時七夕講演会として行いました。

・皆既日食を東京で見よう～立体ドームで体感する皆既日食 2009～

7月22日に、リアルタイムのコンピュータシミュレーションによる日食の起こる仕組みを立体的に分かり易く紹介するとともに、南西諸島などからの日食画像を中継し、東京からその様子を楽しむ科学ライブショー「ユニバース」特別番組を4階B室シンラドームにて行いました。また、上記番組が開館前から満席となったため、急遽4階I室宇宙のひろばにて、各地からの日食中継の一部をご覧頂くイベントを開催しました。

・全天周映画「3D MOON」特別上映

9月22日～25日、27日～30日に、月周回衛星「かぐや」の打ち上げ2周年を記念して、宇宙航空研究開発機構による「かぐや」から撮影した貴重な映像を含む全天周映画の特別上映を、各地のプラネタリウムでの本格的な上映開始に先立って4階B室シンラドームにて行いました。

③博物館連携活動

日付	連携・交流事業（参加・出席）	開催場所
6/11・12	全国科学博物館協議会理事会・総会	国立科学博物館
6/19	東京都博物館協議会総会 日本博物館協会東京支部総会	国立科学博物館
6/24	科学博物館連絡会議	科学技術館
7/9・10	平成21年度指定都市科学館連絡会議	福岡市立少年科学文化会館
9/10	第147回科学館連絡会議	ガスの科学館
10/29～11/1	日豪サイエンスパフォーマー交流事業	日本科学未来館
12/7	ICOM-ASPAC 日本会議 2009	国立科学博物館
2/25	全国科学博物館協議会理事会・総会	仙台市科学館
3/11	東京都博物館協議会常務理事会・理事会・総会 日本博物館協会東京支部委員会・総会	江戸東京博物館

④学校連携

九段小学校と連携し、小学校理科天文の単元の授業支援を行いました。

実施日：4月15・22日、7月8・9日、10月21・22日、1月20日、2月3・4日

⑤JST 地域連携活動支援

大妻女子大学と連携し、都内小学生を対象に昆虫と天文の観察会を実施しました。

実施日：7月26日、8月22・23日、9月6日、10月18日

(4) 特別展の開催

①第50回科学技術週間

例年通り、週間中の土曜日である4月18日を無料開館日としました。また当日は、第50回にあたって日本郵便麹町支店の協力を得て「科学技術週間50周年記念」の小型印を作成しました。3階G棟（ガスクエスト前）に小型印による特別消印を押印するブースを設置し、来館者にご利用いただきました。

②第29回日本自然科学写真展 ―自然の中の不思議を知る―

自然と科学をテーマに、自然が作り出す美しい瞬間、物理現象が見せる不思議で神秘的な瞬間等を捉えた様々な写真を、2階及び4階のG棟サイエンスギャラリーにて展示しました。

会期：4月29日～5月30日

主催：日本自然科学写真協会、財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

③第13回科学技術館万華鏡ワークショップ

直角三角形の万華鏡を作るワークショップを、4階D室イベントホールにて開催しました。

会期：5月3日～5日

主催：日本万華鏡倶楽部、財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

④講演会「国際宇宙ステーション特別企画：宇宙に行こう！」

6月の「きぼう」日本実験棟の完成を目前に、4階B室シンラドームにて講演会を開催しました。

会期：5月30日

⑤秋山仁先生のシゼコンかがくラボ ～?でつながる夏休み～

第50回自然科学観察コンクール(通称：シゼコン)を記念して、科学技術館、盛岡市子ども科学館、阿南市科学センター、佐賀県立宇宙科学館の4会場をネットワークでつなぎ、特別授業やワークショップ、Q&Aなどを楽しみながら理科・科学研究の魅力を理解してもらおうイベントを、4階I室宇宙のひろばにて開催しました。また、佐賀県立宇宙科学館のサイエンスショーには当館から講師を派遣しました。

会期：7月20日

主催：自然科学観察コンクール(自然科学観察研究会)

共催：財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館、盛岡市子ども科学館、阿南市科学センター、佐賀県立宇宙科学館

特別協賛：オリンパス株式会社

⑥竹とんぼを作って飛ばそう@科学技術館

会期：7月27日

主催：どこ竹@竹とんぼ教室、財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

⑦ウォーターフェア'09 東京 水の展示会

水の週間に合わせて、2階C室イベントホールにて水と関わりについての展示会を開催しました。

会期：7月31日～8月2日

主催：国土交通省、東京都、水の週間実行委員会

⑧青少年のための科学の祭典 全国大会

1階催物場での開催に合わせて、会期中を無料開館としました。

会期：7月31日～8月2日

⑨「Nature Contact ～みんなで地球の未来を考えよう!」夏のキャンペーン

2階G棟Nature Contactにおいて、展示やクイズの参加者にプレゼントを行いました。

会期：8月1日～2日

⑩《科学技術館×栄光ゼミナール》夏休み自由研究お役立ち理科実験教室

夏休みの自由研究にも役立つ実験教室を、「メダカ博士になろう! ～メダカの卵の観察～」 「電気が流れるジュース!? ～電解質水溶液のふしぎ～」 「こんな真夏に雪が降る!? ～結晶の科学～」 「色のいろんなイロ ～色と光の3原色～」として、4階I室宇宙のひろばにて行いました。

会期：8月1日、2日、8日、9日

⑪夏休み特別展「美を科学する・美—Make展」

夏休み特別展として、女性(お母さんとお嬢さん)をメイン対象にした日本の科学館では類を見ない「美」をテーマにした科学展示イベントを開催しました。化粧の歴史、効果から、医療用メイク、アンチエイジングへの取り組み、脳と化粧の関係など、化粧の最新情報を映像やパネルで紹介し、最先端のメイクシミュレーターや測定機で自分の肌の状態を確認できるなど体験型展示を中心に映像やパネル、ワークショップで連日たくさんの来場者で賑わいました。

会期：8月8日～31日

主催：財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

特別協力：日本財団

⑫Micro Presence —昆虫 ミクロ・リアリズム

STU 研究所と慶應義塾大学 Micro Archiving Project による次世代のデジタル昆虫図鑑を、参加体験型システムとして4階B室シンラドーム前室にて展示しました。

会期：8月10日～30日

主催：慶應義塾大学 Micro Archiving Project、STU 研究所

共催：財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

後援：テスコ株式会社、丸紅情報システムズ株式会社、株式会社アスナ、株式会社ウィンテクノ、

独立行政法人 理化学研究所 生物基盤構築チーム、日本ビクター株式会社

⑬ワークショップ「ミツバチの今を観察する」

社会性昆虫の一種であるセイヨウミツバチの体の仕組みや行動について観察するワークショップを、6

階実験工房と4階工作室にて開催しました。

会期：8月10日、12日、17日、21日、25日、28日、29日

⑭実験ジャー 夏の陣

会期：8月14日、15日、16日

⑮未来都市2100年石炭ランド

夏休み子ども石炭実験教室として、楽しみながら石炭について知ってもらえるようなイベントと実験教室を、4階D室イベントホールにて開催しました。

会期：8月16日～18日

主催：クリーン・コール・デー実行委員会(事務局：財団法人 石炭エネルギーセンター)

共催：財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

⑯ワクエコ・カーモデラー教室

プロのカーモデラーと一緒にクレイモデル造形に挑戦しモデル造形を体験学習出来る教室を、2階D室ワクエコ・モーターランドにて開催しました。

会期：8月20日、21日、3月26日

主催：日本カーモデラー協会、社団法人 日本自動車工業会

⑰特別教室「サイクルサイエンス教室」

(JKA 補助事業)

JKA の補助事業として身近な乗り物「自転車」をテーマとした特別教室を(財)日本自転車普及協会と連携し、4階I室宇宙のひろばにて開催しました。

会期：8月23日、9月20日、10月25日、11月22日、3月28日 (各日1日2回開催：合計10回)

⑱第27回マイクロマウス東日本地区大会

マイクロマウス競技、クォーターマウス競技など3種類の競技を実施しました。

会期：9月27日

主催：マイクロマウス委員会 日本委員会 東日本支部、財団法人 ニューテクノロジー振興財団

共催：財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

⑲栄光ゼミナールの出張理科実験教室

夏休み自由研究お役立ち理科実験教室に続き、実験教室を2階C室イベントホールにて開催しました。

会期：10月25日、12月20日、2月21日

⑳生物学者と天文学者が語る「宇宙に住もう!？」

理化学研究所の林崎領域長・戎崎主任研究員による宇宙資源の活用についてのトークショーを、4階B室シンラドームにて開催しました。

会期：11月15日

主催：独立行政法人 理化学研究所 オミックス基盤研究領域

協賛：財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

㉑第40回市村アイデア賞作品展

次代を担う小・中学生のアイデアの芽生えを奨励するために設けられた市村アイデア賞の作品展を、振興事業部と連携し、2階G棟サイエンスギャラリーにて開催しました。

会期：11月20日～12月6日

②ものづくり体験「たたら製鉄実験」イベント

サイエンス友の会会員を対象とした「たたら製鉄実験」イベントを、一般の方にもご覧頂きました。

会期：11月29日

主催：社団法人 日本鉄鋼連盟、財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

指導：NPO法人 ものづくり教育たたら

③第10回日本万華鏡大賞公募展

応募総数65点から選出された各賞13点、佳作14点等を、4階I室宇宙のひろばにて展示しました。

会期：12月6日～13日

主催：日本万華鏡倶楽部、財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

④ミツロウで作る「フローティングキャンドル」ワークショップ

ミツバチが六角形の巣を作るための材料「蜜蝋」を使ったフローティングキャンドル工作を、ミュージアムショップ・みかちゃん工房との共同企画として行いました。

会期：1月31日

⑤第9回「国土交通Day」図画コンクール・フォトコンテスト入賞作品展示会

第9回「国土交通Day」における行事の一環として、国土交通省主催「国土と交通に関する図画コンクール」及び建設広報協議会主催「第14回豊かで住みよい国づくりフォトコンテスト」の展示会を2階G棟サイエンスギャラリーにて開催しました。

会期：2月6日～14日

⑥けんせつフェスタ2010

4階F室建設館との連動型イベントを、昨年度までの「コンストラクション・ワンダーランド」から改称して、4階D室イベントホール、4階G棟サイエンスギャラリー、建設館、その他全館にて開催しました。

会期中は無料開館日としました。

会期：2月13日～14日

主催：社団法人 日本建設業団体連合会、社団法人 日本土木工業協会、社団法人 建築業協会

⑦第16回原子力ポスターコンクール受賞作品展示

文部科学省と経済産業省資源エネルギー庁の共催による第16回原子力ポスターコンクールの受賞作品を、2階G棟サイエンスギャラリーに展示しました。

会期：2月22日～28日

⑧第4回高知大学バイオ&アグリ・オープン・スクール「Welcome to 高知サイエンスヴィレッジ」～高知の自然から、おもしろ科学の贈り物～

高知の自然が育んだ様々な生物の話と特産品により、自然の科学と楽しさを実感するイベントを4階D

室イベントホールにて開催しました。

会期：2月27日～28日

主催：国立大学法人 高知大学 農学部、NPO法人 高知サイエンスヴィレッジ

共催：財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

⑳第53回全国学芸科学コンクール作品展示会

第53回全国学芸コンクールの受賞作品を、2階G棟サイエンスギャラリーに展示しました。

会期：3月24日～(4月6日)

主催：株式会社旺文社

後援：内閣府、文部科学省、環境省

㉑ニューロクリアティブ研究会第3回フォーラム「創造する脳 ～未来からの時空を遊ぶ」

特別ワークショップ

フォーラムの一プログラムとして、「宇宙を遊ぶ ～シンラドーム」「匂いを遊ぶ ～オリジナル香水をつくる」「空力を遊ぶ ～紙ブーメラン選手権」と題したワークショップを開催しました。

会期：3月24日

主催：NPO法人 ニューロクリアティブ研究会

㉒エコ・エネルギー科学教室

モデルハウス「創エネハウス」の見学や米村でんじろうサイエンスショー、「なるほど・エネルギーひろば」と題した様々な催し等を、2階C室イベントホール他にて開催しました。

会期：2月6日、3月25日～28日

主催：読売新聞社、財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

特別協力：独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

後援：財団法人 新エネルギー財団

協賛：新日本石油株式会社

㉓科学ライブショー「ユニバース」

原則として毎週土曜日の午後に、研究者による科学ライブショーを上演しました。

4月4日 半田 利弘（東京大学）※世界天文年2009特別番組

4月11日 伊藤 哲也（自然科学研究機構 国立天文台）

4月18日 亀谷 和久（宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部）

4月25日 矢治 健太郎（立教大学）

5月2日 亀谷 和久（宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部）

5月9日 戎崎 俊一（理化学研究所）、柴田 一成（京都大学）

5月16日 矢治 健太郎（立教大学）

5月23日 伊藤 哲也（自然科学研究機構 国立天文台）

6月6日 伊藤 哲也（自然科学研究機構 国立天文台）

6月13日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)

6月20日 矢治 健太郎 (立教大学)、鈴木 秀彦 (総合研究大学院大学 / 国立極地研究所)

6月27日 半田 利弘 (東京大学)、あさりよしとお (漫画家)

7月4日 半田 利弘 (東京大学) ※世界天文年2009 特別番組

7月11日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)

7月18日 矢治 健太郎 (立教大学)

7月22日 半田 利弘 (東京大学) ※世界天文年2009 特別番組

7月25日 伊藤 哲也 (自然科学研究機構 国立天文台)

8月1日 半田 利弘 (東京大学)

8月8日 矢治 健太郎 (立教大学)

8月15日 伊藤 哲也 (自然科学研究機構 国立天文台)

8月22日 伊藤 哲也 (自然科学研究機構 国立天文台)、小檜山 賢二 (慶應義塾大学)

8月29日 半田 利弘 (東京大学)、小檜山 賢二 (慶應義塾大学)

9月5日 矢治 健太郎 (立教大学)

9月12日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)

※東京国際科学フェスティバル

9月19日 松浦 匡 (科学技術館) ※東京国際科学フェスティバル

9月26日 半田 利弘 (東京大学)、熊谷 紫麻見 (日本大学) ※東京国際科学フェスティバル

10月3日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)

10月10日 伊藤 哲也 (自然科学研究機構 国立天文台)

10月17日 矢治 健太郎 (立教大学)、野本 知理 (神戸大学)

10月24日 川井 和彦 (理化学研究所)

10月31日 半田 利弘 (東京大学)

11月7日 戎崎 俊一 (理化学研究所)、吉村 忍 (東京大学)

11月14日 伊藤 哲也 (自然科学研究機構 国立天文台)

11月21日 矢治 健太郎 (立教大学)

11月28日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)

12月5日 矢治 健太郎 (立教大学)

12月12日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)

12月19日 半田 利弘 (東京大学)

12月26日 半田 利弘 (東京大学)、藤岡 洋 (東京大学)

1月9日 伊藤 哲也 (自然科学研究機構 国立天文台)、下山 淳一 (東京大学)

1月16日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)

1月23日 半田 利弘 (東京大学)、大朝 由美子 (埼玉大学)

- 1月30日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)
- 2月6日 永井 智哉 (自然科学研究機構 国立天文台)、唐崎 健嗣 (株式会社ホットスター)
- 2月13日 半田 利弘 (東京大学)、筑本 知子 (財団法人 国際超電導産業技術研究センター)
- 2月20日 矢治 健太郎 (立教大学)、石川 遼子 (東京大学 / 国立天文台)
- 2月27日 伊藤 哲也(自然科学研究機構 国立天文台)、本田 充彦 (神奈川大学)
- 3月6日 矢治 健太郎 (立教大学)、長谷川 洋一 (有人宇宙システム株式会社)
- 3月13日 半田 利弘 (東京大学)
- 3月20日 亀谷 和久 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)
- 3月27日 伊藤 哲也(自然科学研究機構 国立天文台)

③FOREST イベント

- 1) つくろう! さがそう! FOREST たなばた
7月1日～7日
- 2) いない・いない・ばあ選手権
10月4日、18日
- 3) FOREST 探検隊 ～第1回「ストロボであそぼう!」～
11月8日、22日
- 4) FOREST クリスマスイベント 一星と雪のクリスマスー
12月1日～25日
- 5) FOREST☆初あそび
1月9日～11日

(5) 広報活動

①メディア

科学技術館の事業PR、展示室の更新、特別展、ミニイベントの開催等について、テレビ、新聞、雑誌等に対して記事掲載依頼をするなど積極的に広報活動を展開しました。主な放映、記事掲載は次の通りです。

1) テレビ・ラジオ

媒体名	会社名	取材・掲載箇所
ビートたけしのTVタックル	テレビ朝日	全館
コミュニティチャンネル「それ行け! たばちゃん」	東京ケーブルネットワーク(株)	全館
BS日テレ「自転車倶楽部」	日テレアックスオン	自転車広場
Sma STATION!!	テレビ朝日	ワークス、建設館、 ワクエコ・モーターランド
テレビ東京「ソロモン流」	(株)モンスター・ナイン	ワークス、全館
ヒミツのちからんど (NHK教育テレビ)	日本放送協会	ワークス
BSジャパン「Jナビ」	株式会社テレビ東京	ワクエコ・モーターランド
王様のブランチ	株式会社TBS テレビ	ワークス、メカ、建設館、 北の丸サイクル
真相報道バンキシャ!	日本テレビ放送網(株)	5F
フジテレビ「たけしのコマ大数学科」	株式会社イースト	実験工房
CHINTAI presents TIME FOR BRUNCH	株式会社 J-WAVE	シンラドーム

テリーとたい平のってけラジオ・生中継コーナー	株式会社 ニッポン放送	全館
福島中央テレビ「サイエンChu!ただ今ランチ前」	㈱CN インターボイス	アトミックステーション ジオ・ラボ
TBS「世界ふしぎ発見！」(イベント)	テレビマンユニオン	DENKI FACTORY
公司的力量(会社の力)	中央テレビ局(中国)	全館
東京印象	上海ロキシー文化伝播有限公司	全般、建設館
中京テレビ	中央テレビ映像企画	植物工場
Jナビ	BS ジャパン(テレビ東京)	自転車文化センター 北の丸サイクル
自転車専科	BS フジ(共同テレビジョン)	自転車広場

2) 新聞

媒体名	会社名	取材・掲載箇所
日刊工業新聞	日刊工業新聞社	アトミックステーション ジオ・ラボ
産経新聞	産経新聞社	全館
朝日小学生新聞	朝日小学生新聞	NEDO
毎日新聞	毎日広告社	美を科学する特別展 科学の祭典
沖縄タイムス	沖縄タイムス社	米村でんじろう大実験ショー
琉球新報	琉球新報社	マグネット展(巡回展)
読売新聞	読売エージェンシー	美を科学する特別展
毎日新聞(アカデミー特集・竹橋エリア)	ハッピージャパン	ワークス
電気新聞	電気新聞	石炭ランド(夏休みイベント)
毎日新聞(朝刊25ページ・遊ナビイベント館)	毎日新聞社	美を科学する特別展
夕刊フジ	電気事業連合会	アトミックステーション ジオ・ラボ
朝日小学生新聞	朝日小学生新聞社	全天周映画「3D MOON」(シンラドーム)
原子力産業新聞	日本原子力産業協会	アトミックステーション ジオ・ラボ
読売新聞	読売エージェンシー	館概要
沖縄タイムス	沖縄タイムス社	実験ジャーなど
日刊工業新聞	日刊工業新聞社	企業連携の強化
読売新聞(夕刊)	読売新聞社	けんせつフェスタ (無料入館日)
東京スポーツ	東京スポーツ新聞社	全館
読売新聞	読売新聞社	エコ・エネルギー科学教室
朝日小学生新聞	朝日小学生新聞	サイエンス友の会実験教室

3) 雑誌

媒体名	会社名	取材・掲載箇所
Motor Magazine 5月号	モーターマガジン社	ワクエコ・モーターランド
電気協会報	電気事業連合会	アトミックステーション ジオ・ラボ
e g 電気とガス	財団法人経済産業調査会	アトミックステーション ジオ・ラボ
日経サイエンス8月号	日経サイエンス 編集部	シンラドーム(日食イベント)
月刊エネルギーフォーラム	株式会社エネルギーフォーラム	全館
家族でおでかナ' 09夏休み号	㈱昭文社	館概要
工業教育5月号	㈱産学通信社	館概要
「AERA」6/26号	朝日新聞出版	ワークス
水産総合月刊誌「水産界」	(社)大日本水産会	アトミックステーション ジオ・ラボ
照明学会誌	(社)照明学会 事務局	全館
VERY	㈱光文社	館概要
日経トレンドィ	日経BP社	シンラドーム(日食イベント)

東京ウォーカー	株式会社角川マーケティング	美を科学する特別展
ドラえもん&でんじろう先生のどこでもカガク!	小学館	ワークス (空気砲)
自動車工業 JAMAGAGINE	(社) 日本自動車工業会	ワクエコ・モーターランド 「カーモデラー教室」
原子力 eye	㈱日刊工業出版プロダクション	アトミックステーション ジオ・ラボ
東京博物館ベストガイド	東京地区出版㈱	館概要
親子で行こう! おもしろミュージアム	ビーハイブ (洋泉社)	全館
あんふあん「ミュージアム特集」	サンケイリビング新聞社	館概要
内閣府英文広報誌「エコで行こう チャレンジ21」	共同通信社 国際情報編集部	植物工場

4) WEB その他

媒体名	会社名	取材・掲載箇所
Robot Watch	フリーランス	全館
テレサガGO!GO!MAGAZINE	テレビ朝日	シンラドーム
千代田区観光協会ホームページ	千代田区観光協会	全館
Lets Enjoy Tokyo	Lets Enjoy Tokyo 事務局	美を科学する特別展
Car Watch	Car Watch	ワクエコ・モーターランド 「カーモデラー教室」
すぐパラ倶楽部お出かけパラダイス	マックス・コム㈱	館概要
プレジデントファミリークラブ	ギガビジョン㈱	全館
ミュージアムカフェ	㈱こう済堂	館概要
鉄蔵くん.com	三井物産スチール㈱	鉄の丸公園
Lets Enjoy Tokyo	Lets Enjoy Tokyo 事務局	エコ・エネルギー科学教室
こちら!サイエンス Jr. 編集部	㈱テレパック	植物工場

②入館者誘致

入館者サービスと個人入館者増を図るため、科学技術館のホームページ上に入館割引券を引き続き載せました。また、東京の美術館・博物館等の共通入館券「東京・ミュージアムぐるっとパス」スタンプラリー(平成21年4月1日～平成22年3月31日)に昨年に引き続き参加しました。

③入館者状況

	平成 21 年度 (開館日数 359 日)		平成 20 年度 (開館日数 359 日)	
	人数	割合	人数	割合
個人入館者数	368,975 人	59.5%	350,596 人	63.5%
団体入館者数	251,653 人	40.5%	249,795 人	36.6%
合計	620,628 人	100%	600,391 人	100%

④展示の特別案内

- ・9月4日 電力館 宇佐美光吾館長
- ・9月14日 東京電力 築館監査役会会長
- ・9月17日 新東海旅行 須賀美智子専務取締役
- ・9月30日 電気事業連合会 手島康博理事
- ・10月21日 長江山峡工程集団公司(中国)、前田建設工業株式会社

- ・ 11月19日 中間法人ディレクトフォース技術部会
- ・ 12月9日 JICA「南アジア地域小学校理科教育の質的向上コース」研修生
- ・ 12月13日 Office of the Non-Formal and Informal Education (ONIE), Ministry of Education
(タイ王国)

(6) 巡回展事業

①巡回型展示「美を科学する」2の制作 (日本財団助成事業)

本展示では、「美しさ」とは何か、より美しさを求める女性のコスメティックの世界やファッションでは時代に即したあるいは時代を先取りした研究開発、科学技術や心理学などがどのように応用されているのか解き明かしながら、参加体験できる展示の制作を行いました。平成21年度では、「化粧品を科学する」コーナー、「香りの科学」コーナー、「化粧の力を知ろう」コーナー、「外見から見た美しさ」コーナー、「美のトレンド」コーナーの展示制作を行い、前年度分の展示と合わせ「美を科学する」展示が完成致しました。展示制作物は以下の通りです。

◇美の歴史◇美女からのメッセージ、美の世界史、美の日本史

◇美を科学する◇目的別化粧品、あなたのお肌をチェック、ゴールデンバランス、香りの科学

◇化粧の力◇セラピーメイク、アンチエイジング、美と脳科学、脳の活性化、脳エクササイズ、正対鏡

◇美のトレンド◇美のトレンドはこうして作られる

◇外から見た美しさ◇体型の変化、民族の特徴、平均顔

◇ワークショップ◇香水を作ろう、キューティクルの観察、暮らしの中の乳化

◇映像コーナー◇日本の化粧、「技の彩」～伝統工芸に息づく色 紅色・小町紅～、化粧品ができるまで、口紅ができるまで

②展示物等貸出

1) スポーツの科学展

3月20日～5月31日 つくばエキスポセンター
7月18日～8月31日 新潟県立自然科学館 「スポーツ・ラボ」

2) 感覚体感フィールド展

4月25日～5月11日 通信総合博物館
7月17日～8月31日 愛知健康プラザ「五感実感ワンダーランド」
10月20日～11月23日 高崎市少年科学館 「感覚体験フィールド」

3) マグネット展

7月18日～10月31日 沖縄こどもの国 「マグネット展」
3月20日～4月8日 ムシテックワールド

4) 美を科学する・美-Make展

12月12日～1月11日 愛媛県総合科学博物館 「美とメイク」

3月20日～4月11日 新潟県立自然科学館

5) 地球環境展

3月20日～4月11日 栃木県子ども総合科学館わくわくグランディ科学ランド

③サイエンスショー、科学演劇の開催

1) 実験ジャー

4月18日 理化学研究所
 9月5日・6日 おもしろ科学館(北海道幌延町)
 10月24日 沖縄県立武道館(沖縄の産業まつり)
 10月28日 高崎市少年科学館
 11月15日 汐留シティセンター「ファミリーデー2009」

2) チャーリー西村・サイエンスバーチャルファイター

【多摩六都科学館受託 多摩・島しょ子ども体験塾助成事業】

7月24日 清瀬市児童センター「ころぼっくる」
 8月1日 東村山市立中央公民館ホール
 8月22日 西東京市民会館公会堂
 8月26日 ルネこだいら 中ホール
 9月13日 東久留米市立中央公民館ホール

④出前実験ショー

日付	開催場所	主催・発注者等
6/17	福島県大沼郡金山町金山小学校	東北電力
7/3～5	ムシテックワールド	福島
7/12	所沢航空発祥記念館	所沢航空発祥記念館
7/20	佐賀県立宇宙科学館 (シゼコンイベント)	毎日広告社
8/1～2	山形総合学習センター	東北電力
8/8～9	海津市民文化センター	所沢航空発祥記念館
8/21～23	防災フェア 2009in はままつ	日建連
8/23	所沢航空発祥記念館	所沢航空発祥記念館
9/25～26	静岡科学館るくる	静岡科学館るくる
9/27	所沢航空発祥記念館	所沢航空発祥記念館
10/17・18	沖縄こどもの国	沖縄県子供科学力養成塾事業
10/18	所沢航空発祥記念館	所沢航空発祥記念館
11/8	所沢航空発祥記念館	所沢航空発祥記念館
11/11・12	石巻市立河北中学校 女川町立女川第一中学校	東北電力
11/15	汐留シティセンター	三井化学
11/15	志木市環境フェア 2009	東京電力
11/21～23	瑞浪市民体育館	中部科学技術センター
11/28・29	石垣少年自然の家 石垣市商工会館	沖縄県子供科学力養成塾事業
12/2・3	石巻市立湊中学校 石巻市立渡波中学校	東北電力

12/8	印西市立木刈小学校	印西市立木刈小学校
12/12・13	会津大学	東北電力
12/14	石巻市立北上中学	東北電力
12/22・23	山形県民会館	山形市私立幼稚園父母の会
1/18・19	福島県矢祭町立東館小学校	東北電力
1/30	所沢航空発祥記念館	所沢航空発祥記念館
2/6	学士会館（シゼコン表彰式）	毎日広告社
2/8	石巻市立雄勝中学校	東北電力
2/21	所沢航空発祥記念館	所沢航空発祥記念館
2/26・27	新潟県立自然科学館	東北電力
3/5～7	沖縄こどもの国	沖縄県子供科学力養成塾事業
3/21	新潟県長岡市中央図書館	東北電力

(7) 学芸活動

①博物館学芸員養成活動

博物館学芸員資格取得を目指す大学生を実習生として受け入れ、博物館実習を実施しました。

8月11日～21日(10日間) 10大学10名

12月8日～18日(10日間) 5大学5名

②「体験学習」「職場訪問」受入

中学校におけるキャリア教育の一環である「体験学習」「職場訪問」において、希望する学校から生徒を受け入れました。 受入校：述べ42校（重複する学校あり）

③調査研究活動

1) 財団法人新技術振興渡辺記念会・科学技術調査研究助成事業(平成20年度上期)による「科学館における環境・エネルギー教育に関する調査研究」の一環として、電力展示室「DENKI FACTORY」の実験演示の効果測定試験を実施しました。

2) 科学技術館の展示活動の定性的評価として、原子力展示室「アトミックステーション ジオ・ラボ」と建設展示室「建設館」の来館者アンケート調査と実施しました。

・「ジオ・ラボ」～実施日：8月28日～30日、回答者数：子ども230人・大人177人

・「建設館」～実施日：3月12日～14日、回答者数：子ども236人・大人108人

④学会等発表

第5回 Gyeongwoon 国際シンポジウム「自然と地球温暖化」にて、平成19年度 JKA 補助事業「博物館における環境技術リテラシーの手法に関する調査・研究」の成果を発表しました。

開催期間：9月21日～23日(発表は21日)

開催場所：鶏龍山自然史博物館(韓国・大田)

2. 企画・コンサルティング事業

(1) 教育・文化関連事業

①鳥取市歴史博物館常設展示装置点検業務

((財)鳥取市文化財団受託業務)

同館の展示装置の定期点検の実施と映像系展示の保守点検と映像系展示のシステム更新を行いました。

②平成 21 年度環境測定分析環境測定分析統一精度管理調査 情報システムの運用業務

(財)日本環境衛生センター受託事業)

(財)日本環境衛生センターが実施する平成 21 年度環境測定分析統一精度管理調査における情報収集、公開の為にコンピュータシステムの運用業務を請け負い、情報システム開発部と協力で開発した報告書回収機能で平成 20 年度分析結果報告(9 種類)の受付・回収を実施しました。

③横須賀市浦賀ドックサイエンスイベント

(横須賀市受託事業)

浦賀ドックサイエンスイベントの企画及び運営実施業務を受託し、8 月 22・23 日に住友重機械工業(株)浦賀工場内の浦賀ドックにて、サイエンスショーとワークショップを実施しました。

④(仮称)岡崎市子ども科学館のコンテンツと活動に関する調査研究委託業務

(岡崎市受託事業)

岡崎市子ども科学館の基本計画を立案するための事前調査研究として、展示や実験プログラムのあり方や運営方法について検討しました。6 回にわたる子ども科学館設立委員会との協議結果をまとめ、報告書を作成しました。

⑤青森県立三沢航空科学館メンテナンス業務

(青森県受託事業)

保守事業としては同館の展示装置の定期保守点検と故障時対応を行い、イベント業務としては、8 月に「忍玉乱太郎展」を実施しました。

⑥東京都水の科学館再整備映像制作業務

(株)乃村工藝社受託業務)

「東京都水の科学館」の展示全面更新工事に伴う、映像コンテンツの制作を行い平成22年3月24日に納品、竣工しました。

⑦大成風のミュージアムリニューアル

(大成高校受託事業)

大成高校・風のミュージアムは、3カ年で段階的に「風」の展示から「地球温暖化」の展示室に改装する計画であり、今期は、3年目にあたる今年度分の第3期更新計画の企画を進めました。

⑧山梨県立科学館プラネタリウムの設置業務

(山梨県受託事業)

山梨県より山梨県立科学館プラネタリウムの設置業務を受託し、当財団が中心となって開発した、最新のプラネタリウムシステム「プレアデスシステム」の第1号として、MEGASTER-II A (光学投影機)などを納入し、3月20日にリニューアルオープンしました。

⑨川崎市青少年科学館プラネタリウム開発業務

(川崎市受託事業)

川崎市が行った青少年科学館プラネタリウム開発業務のプロポーザル方式による公募に大平技研・日本科学技術振興財団共同企業体として応募し、2月1日付けで選定されました。事業は平成22年度・23年度の2カ年です。

⑩沖縄県子供科学力養成塾事業

(沖縄県受託事業)

将来の沖縄の人材育成のため、内閣府の特別振興対策の一環として「子供科学力養成塾事業」を(財)沖縄こども未来ゾーン運営財団、(株)TL0そして(財)日本科学技術振興財団の3法人でコンソーシ

アムを立ち上げ沖縄県より受託しました。開発プログラムおよび実施は以下の通りです。

1. 沖縄こども未来ゾーンを活用して実施/テーマ【磁石】 実験ショー「すごいぞ！ネオジム磁石」、工作「踊る磁石」、実験「磁石で遊んで、磁石を知ろう」 参加人数418名	平成21年10月17日～18日
2. 石垣天文台を活用して実施/テーマ【宇宙・天文を科学する】 実験ショー「空気のふしぎ実験」、宇宙セミナー「宇宙・天文を科学しよう」、「星空観望会」 参加人数368名	平成21年11月28日～29日
3. 国際海洋環境情報センターを活用して実施/テーマ【海洋を科学する】 実験ショー「海と環境を科学する」、工作教室「海の世界—水圧と浮力—」、実験教室「海水を科学する～豆腐作り」 参加人数1,154名	平成22年1月23日～24日
4. 科学イベントの実施 1) 沖縄産業まつり(10/23.24) 沖縄県立武道館にてマグネット展、おもしろ実験教室、実験ジャージャーショー等を実施。 2) こどもサイエンスフェスタ沖縄(H22.3/6,7)を沖縄こども未来ゾーンにて本年度で開発したプログラムを実施。前原沖縄担当大臣が実験ショーへ特別参加しました。	

⑪ハンセン病対策事業

(厚生労働省受託業務)

1) シンポジウムの開催

8月24日～28日に医療関係者・医大生等を対象とした「第32回ハンセン病医学夏期大学講座」を東村山市多磨全生園にて開催し、33名が受講しました。

2月13日に高松市において「第9回ハンセン病問題に関するシンポジウム」(主催：厚生労働省、財団法人日本科学技術振興財団、HIV人権ネットワーク沖縄、香川県、高松市)を開催しました。本シンポジウムはハンセン病啓発をテーマとして一般市民を対象として開催されているもので、今回の参加者数は547名でした。

2) 啓発資料の作成

全国のハンセン病療養所入所者、退所者、及び関係者等から詩、短歌、俳句、川柳、随筆等の文芸作品を募集し、文芸作品集「ふれあい文芸 22年版」として発行しました。この作品集を全国の図書館や関係機関等に配布しました。

(2) 運営管理・メンテナンス事業

①国立ハンセン病資料館運営管理業務

1) 委員会関連業務

・運営委員会関連業務

資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する重要事項について、専門的な見地から議論、検討する運営委員会の事務局業務を行いました。委員は館長、語り部、全療協事務局長、学芸課長、厚労省担当者等です。運営委員の名簿は以下の通りです。(五十音順)

- 委員長 成田 稔 (国立ハンセン病資料館館長)
- 委員 黒尾 和久 (国立ハンセン病資料館学芸課長)
- 〃 木村 幸司 (厚生労働省健康局疾病対策課課長補佐)
- 〃 神 美知宏 (全療協事務局長)
- 〃 佐川 修 (多磨全生園入所者自治会長)
- 〃 平澤 保治 (前多磨全生園入所者自治会長)

6月から3月にかけて8回に亘り、委員会を開催しました。

・ハンセン病資料館等運営企画検討会関連業務

10月20日、厚労省の主催した標記第5回検討会用資料を作成するとともに、同検討会に出席し説明を行いました。

2) 教育啓発機能関連業務

- ・講座 (成田館長による医学講座) : 18回実施 (聴衆 642名)
- ・佐川修氏、平澤保治氏による館内での語り部活動 : 145回実施 (聴衆 5,873名)
- ・学芸員による展示解説・団体対応 : 231回、学芸員による講演 : 9回実施 (聴衆 303名)
- ・学習支援活動 (講師派遣、移動展示、資料貸し出し)

依頼により語り部の講師派遣活動を17回 (聴衆 2,507名) 行いました。

依頼により学芸員の講師派遣を11回 (聴衆 1,893名) 行いました。

依頼による資料貸し出しは15件でした。

- ・平成21年度国立ハンセン病資料館語り部の記録ビデオ映像制作

国立ハンセン病資料館で開催される「語り部の講演活動」を記録し、教材ビデオ作品を制作する事業で平成21年度から2ヵ年計画で実施しています。平成21年度は平澤さんの講演を基に、「小学4年生以下対象」、「中学生対象」の2作品を制作しました。

- ・講演会・シンポジウム

a) 9月27日「隔離の百年」: 第1回シンポジウム「隔離の記憶を掘る ～全生病院患者地区を囲んだ『堀・土塁 (ほり・どるい)』～」をハンセン病資料館にて開催しました。

講演者 : 成田稔館長 / 黒尾和久学芸課長 司会 : 稲葉上道学芸員 一般参加者 : 120名

b) 国際ハンセン病政策シンポジウムの開催

「ハンセン病医療政策と人権保障—日本とノルウェー—」を金沢大学と共催で2回開催しました。

1月21日「ハンセン病医療政策と資料保存—日本とノルウェー—」 於 : 国立ハンセン病資料館

1月23日「ハンセン病医療政策と患者の人権—日本とノルウェー—」 於 : 金沢市文化ホール

講演者 : ユングベ ネルレボ (在ベルゲン国立アーカイブス所長)、シグード サンドモ (ハンセン病博物館学芸員)、アーネ スキヴェンス (ベルゲン市立アーカイブス所長)

パネリスト：平澤保治氏、佐川修氏 他

入場者はそれぞれ120名でした。

3) 展示機能関連業務

・常設展示の更新

常設展示室3「生きがづくり」コーナーについて、展示資料の入れ替え、展示品数増、盲人バンドバナー作成などの展示更新作業を行いました。また、常設展示室1中央の展示壁改修工事を行い、小学生向け解説シートを設置しました。

・企画展示

a) プレ企画展（写真パネル展：企画展示室）を下記の通り実施しました。

北部保養院展 期間：4月14日～26日

多磨全生園展 期間：4月28日～5月10日

外島保養院展 期間：5月19日～31日

大島青松園展 期間：6月2日～14日

菊池恵楓園展 期間：6月16日～28日

b) 企画展「隔離の百年—公立癩療養所の誕生—」の開催

会期：7月25日～12月20日

公立癩療養所設置100年という節目に、ハンセン病とその回復者への関わり方を改めて振り返る場として、療養所設立の経緯や当時の設置地域の状況などをご紹介する企画展を開催しました。

c) 企画展「桃生小富士展」の開催

会期：平成22年1月30日～2月28日

53点の水彩画と川柳を前期と後期に分けて展示しました。

また、企画展の付帯事業として2月13日に当館映像ホールにてコンサートを実施しました。

d) 春季企画展「着物にみる療養所の暮らし」の準備

平成22年4月24日～7月25日を会期として実施する標記企画展に向けて準備を行い、3月にポスター、チラシを作成しました。

4) 収集保存機能関連業務

・収集

今年度開催した企画展「隔離の百年—公立癩療養所の誕生—」に関連して、療養所設立当時の各地元の新聞記事・写真・文書資料等の収集を行いました。また寄贈・購入等により、各療養所における生活資料、回復者による作品、文書資料、書籍等ハンセン病にまつわる資料の収集を行いました。

・保存・収蔵

a) 5月11日～13日 収蔵庫の燻蒸を実施しました。

b) 劣化が進んだ当館所蔵油画作品「黄瀬川にて」（加藤博子作）の修復を5月に実施しました。

- c) 将来にわたって資料情報を継承するため、音声・映像資料のデジタル化を進めました。対象は、オープンリールテープ 345 本、ビデオテープ (VHS 方式、VHS-C 方式、β 方式) 1,003 本、音声カセットテープ 1,887 本、検証会議の音声カセットテープ 1,142 本です。
- d) 将来にわたって図書資料を継承するため重要文献のマикроフィルム化を進めました。
- e) 唯一性が高い「全生常会書類綴」「執行委員会記録」「舎長会記録簿」などの園・自治会の公文書、および印刷部数の極めて少ないガリ版刷りの「園内報」などの稀少資料について 1 万コマのマикроフィルム撮影を行い、紙焼き製本とマイクロフィルムにより保存と利用の両立を図りました。
- f) 療養所で制作・利用された歌舞伎衣装「羽織、袴、袷、単衣、法被、肌襦袢、浴衣用簡易帯、手拭い、半纏、帷子」(当館収蔵品) の計 13 点の修復を行いました。また、療養所内での患者の日常着「袷、単衣、半纏」の計 7 点について複製を製作しました。
- g) 平成 21 年度新規収蔵資料の燻蒸を 3 月に行いました。

5) 調査研究機能関連業務

・ハンセン病に関連する調査研究

- a) 全生園内の史跡・「遺跡」表面調査を行いました。(実踏・聞取)
- b) 企画展「隔離の百年—公立癩療養所の誕生—」開催準備のため、公立療養所 5 カ所の設立時の様相について、当時の新聞記事の収集を中心に調査を行いました。
調査訪問先：横浜新聞博物館、東京都立中央図書館、国会図書館、国立公文書館、菊池恵楓園、待労院、本妙寺、熊本県立図書館、大阪府立公文書館、大阪府庁、西東京市史編纂室、好善社
- c) ノルウェーの、ベルゲン市ハンセン病公文書館、国立アーカイブスベルゲン支部、ベルゲン市アーカイブス、ハンセン病博物館等との国際シンポジウムのテーマや構成について企画しました。
- d) 冬期企画展「桃生小富士展」開催のための調査をしました。
- e) 10 月 23 日～26 日 ハンセン病や類似テーマに関連する展示や史跡の見学・調査のため、思文閣、ものよし村跡 (京都)、水俣病資料館 (熊本)、星塚敬愛園 (鹿児島)、北山十八間戸および西山光明院跡 (奈良) を訪問しました。
- f) 11 月 1 日～3 日に長島愛生園において故近藤宏一氏所蔵のハーモニカ組立器の寄贈 (寄贈者：故近藤宏一氏の妹である山下良子氏) に伴う資料調査を実施しました。
- g) 11 月 24 日～25 日に草津温泉・長吏小頭・湯根 (湯花屋) 三右衛門の足跡とハンセン病患者の関わりを探るフィールド調査を実施しました。
- h) 12 月 2～5 日 岡山県高梁市川上町 権現谷岩陰遺跡 (ハンセン病関連遺跡) の調査を行いました。
- i) 平成 22 年春季企画展「着物にみる療養所の暮らし」について、聞き取り、文献調査、資料調査を行いました。
- j) 国際ハンセン病政策シンポジウム (第 1 回) 「ハンセン病医療政策と資料保存—日本とノルウェー

——」をテーマとしたブックレット作成のため、シンポジウム成果のとりまとめを行いました。

- k) 「隔離の百年」第1回シンポジウム「隔離の記憶を掘る ～全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁（ほり・どるい）」～」をテーマとしたブックレット作成のため、講演録をもとにシンポジウム成果のとりまとめを行いました。

・博物館活動全般に関連する調査研究

- a) 8月20日～8月30日 東京学芸大学からの依頼により、科学研究費補助金による戦争博物館・戦争遺跡の学術的実地調査に学芸員を派遣しました。

用務先：ワルシャワ蜂起記念館、国立アウシュビッツ強制収容所博物館、ビルケナウ収容所（以上ポーランド）、ユダヤ博物館、オットー・ヴァイト視覚障害者工作所博物館、「暴力の地誌」展示場、チェックポイントチャーリー「壁」博物館、ホロコーストメモリアル等（以上ドイツ）

- b) 病気をテーマとした博物館を中心に展示技術を参考にするため、9月4日～5日に新潟水俣病資料館新潟市立歴史博物館、新潟市美術館を見学しました。

- c) 東村山ふるさと歴史館で開催されている全生園に関する展示を見学しました。

・調査研究の公開

- a) 企画展「隔離の百年—公立癩療養所の誕生—」開催のために調査研究した成果を図録（タイトルは企画展名と同じ）にまとめ、配布しました。

- b) 国際ハンセン病シンポジウム（第1回）「ハンセン病医療政策と資料保存—日本とノルウェー—」予稿集を発行し、シンポジウム来場者に配布しました。

- c) 企画展「桃生小富士展」開催のために調査研究した成果を図録（タイトルは企画展名と同じ）にまとめ、配布しました。

- d) 「多磨全生園ハンセン病図書館旧蔵書目録」を3月に刊行しました。

山下道輔氏、黒崎彰氏、藤野豊氏、村井澄枝氏、廣川和花氏による解説と、当館請求記号（日本十進分類法）に則った目録、旧図書館整理番号と当館請求記号の対照リストなどを掲載しました。

- e) 「平成21年度 国立ハンセン病資料館研究紀要 第1号」を3月に発行しました。

- f) 「国立ハンセン病資料館ブックレット1「隔離の記憶を掘る」シンポジウムの記録」、 「国立ハンセン病資料館ブックレット2 ハンセン病関連法令資料集」を3月に発行しました。

6) 情報センター機能関連業務

・情報提供・検索システム関連業務

- a) 図書管理システム改修や機能の追加を行いました。図書管理システムの新規インストール、図書・雑誌データ統合などの改修作業を行いました。

- b) 療養所自治会等が発行した機関誌PDFを原本の保存及び閲覧提供のため仕様を統一し、紙媒体のみに検索手段が限られるインデックスのテキスト化を行いました。対象は、当館が所有する機関誌PDF

ファイル全5,486点です。

c) 図書室（資料閲覧室）における情報提供、レファレンス

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開室日	24	25	24	26	25	24	25	23	21	22	22	26	287
新規資料受入数	58	46	56	84	116	74	78	81	86	58	66	52	855
レファレンス	11	18	21	18	17	23	14	9	14	22	16	22	205
利用者数	196	181	172	223	241	283	284	271	258	241	267	192	2,809
資料出納数	28	20	16	16	28	51	45	30	32	43	39	72	420
資料複写対応件数	23	34	9	21	47	33	23	31	35	29	28	17	330
新規登録者	0	0	3	2	2	4	0	0	5	3	3	0	22

・その他の実績・事業進行状況

平成20年度購入図書の伝票・現物照合およびデータ入力(590冊)をしました。

寄贈資料(医学書(和洋)・雑誌・論文)の整理作業を実施しました。

特殊分類廃止作業を実施しました。

趙根在寄贈資料整理(コピー・論文・スクラップ(180点))を実施しました。

新聞記事スクラップの整理をしました。

ハンセン病に関する新聞および雑誌記事クリッピングサービスを導入しました。

映像資料視聴環境の整備を行い、12月より映像資料の閲覧を開始しました。

語り部活動に伴う感想文などの合冊製本を行いました。

蔵書点検作業を実施しました。

・印刷物(出版物)による情報提供

a) 資料館の機関誌「資料館だより」第63号を4月1日に、第64号を7月1日に、第65号を10月1日に、第66号を1月1日付けで発行し、関係機関へ配布しました。

b) 平成20(2008)年度国立ハンセン病資料館年報を10月31日に発行しました。

c) 来館者用配付資料等：国立ハンセン病資料館パンフレット(日本語版)を改訂し、10月に発行しました。開館以来更新していなかった、英語、中国語、韓国語版パンフレット掲載情報を最新のものに改め、1月に発行しました。企画展「桃生小富士展」の図録、絵はがきを制作し、企画展に併せて配布しました。

d) 在庫僅少の図録「北 高作陶展図録」および「こころのつくろい展図録」「ちぎられた心を抱いてー療養所の中で生きた子どもたち」「国立ハンセン病資料館常設展示図録」の増刷を行いました。

・資料館ホームページ、インターネットを通じた情報の受発信

ホームページに企画展情報、シンポジウムの情報、開館日カレンダーその他新着情報を随時掲載しました。8月に、団体予約のページを追加公開し、運用を開始しました。1~2月に英語、中国語、韓国語、日本語版計4種類のパンフレットを掲示しました。また、3月末に図書室所蔵資料を館外からインターネット上で検索できるようにした試験公開を開始しました。また、平成21年度中に日本の新聞・雑誌に掲載されたハンセン病関連記事の記事データを同時に公開しました。

7)管理・サービス機能関連業務

・管理・運営

a)12～1月に職員を対象に、個人情報保護教材とテストによる個人情報保護教育を実施しました。

b)臨時休館、臨時開館

- 5月12日～13日 収蔵庫燻蒸のため臨時休館しました。
- 6月22日 名誉回復の日につき臨時開館しました。
- 10月8日 台風のため臨時休館しました。
- 3月23日 桜の季節につき臨時開館しました。
- 1月6日 資料館西側の駐車場の工事が終了し、厚労省会計課より資料館に引き渡されました。臨時駐車場規則を制定し、看板類を整備し、本年度は3月27～28日に臨時駐車場を開場しました。

c)インフォメーション業務、資料頒布サービス

10月15日 中学生向け普及啓発パンフレット「ハンセン病の向こう側」(厚生労働省制作)を受領し、配布を開始しました。

12月18日 前身の高松宮記念ハンセン病資料館が平成5年6月25日に開館して以来の通算入館者20万人を達成しました。

(単位：人)

月/年度	平成20年度			平成21年度		
	個人	団体	合計	個人	団体	合計
4月	869	1,153	2,022	1,865	695	2,560
5月	1,239	1,100	2,339	939	656	1,595
6月	704	938	1,642	682	1,005	1,687
7月	716	908	1,624	1,034	918	1,952
8月	748	499	1,247	1,098	429	1,527
9月	836	629	1,465	1,121	545	1,666
10月	1,893	1,049	2,942	1,351	661	2,012
11月	2,503	1,586	4,089	1,362	1,273	2,635
12月	369	698	1,067	877	691	1,568
1月	548	619	1,167	787	375	1,162
2月	1,454	669	2,123	1,089	729	1,818
3月	857	460	1,317	1,122	562	1,684
合計	12,736	10,308	23,044	13,650	8,231	21,881

・関連機関やその他団体への施設貸し出し

ハンセン病資料館の理念に合致する研究機関や団体等への展示スペースの貸し出しを開始しました。

ギャラリーにおいて合志由布子さんのペン画展(期間：6月9日～28日)を行いました。

ハンセン病学習の発表の場としての施設の貸し出しを行いました。

(研修室利用10件、映像ホール利用2件)

8) 連絡調整活動

資料利用相互協力を結びました。(ハンセン病研究センター・国立療養所多磨全生園 所蔵図書利用)
関係機関(医学図書館協会、日本患者図書館協会、日本博物館協会、東京都博物館協議会、三多摩公立博物館連絡協議会、ハンセン病学会)へ入会しました。
上記関係機関等の会合や研修へ参加しました。(23回)

9) 広報・宣伝活動

a) 資料館の報道

7月25日	日本経済新聞	企画展「隔離の百年」情報
7月25日	東京新聞	企画展「隔離の百年」情報
7月26日	朝日新聞	企画展「隔離の百年」情報
7月26日	聖教新聞	企画展「隔離の百年」情報
8月2日	読売新聞	企画展「隔離の百年」情報
8月15日	市報ひがしむらやま	企画展、シンポジウム情報
9月17日	佛教タイムス	ハンセン病隔離100年
9月26日	朝日新聞	隔離100年の現在 多磨全生園1
9月27日	NHK ニュース	シンポジウム「隔離の記憶を掘る」
9月28日	朝日新聞	国立ハンセン病資料館でシンポジウム
1月20日	朝日新聞	国際シンポジウム情報
1月22日	読売新聞	国際シンポジウム情報、企画展「桃生小富士展」情報
1月24日	読売新聞	国際シンポジウム情報
1月24日	北陸中日新聞	国際シンポジウム情報
1月24日	読売新聞	企画展「桃生小富士展」情報
1月27日	朝日新聞	企画展「桃生小富士展」情報
1月25日	JSF Today No. 115	企画展「桃生小富士展」情報
3月30日放送	NHK ワールド	企画展「桃生小富士展」情報

b) 広報(広告)

事業の案内を行い、その周知をはかるため印刷物の発行ならびに各種報道機関、近隣自治体の広報誌、社会福祉協議会広報誌等への広報依頼を行いました。また最寄りの交通機関に看板等を設置し近隣への周知をはかりました。

IV. 情報システム事業

コンピュータグラフィックス技術、データベース・情報検索技術等の最新情報処理技術によって高度情報化社会のニーズに応えるべく、官公庁、団体、企業等から業務を受託し、各種情報処理システムの研究開発を行うと同時に、インターネット等を活用した情報処理サービス業務を実施しました。

1. 平成 21 年度科学技術振興に関する開発研究等補助事業 (JKA補助事業)

本事業は、財団法人JKAの自転車等機械工業振興補助事業として「ユビキタス社会における科学館学習支援システムの実用化研究」というテーマで補助金を受けた事業です。本年度は、科学技術館事業部と連携を密にし、インストラクターを含む関係者の意見を参考にし、実用化に向けコンテンツを拡充し運用を含めた調査研究を実施することとし、下記の日程にて、科学技術館各階展示ブースにおいて、iPhoneを使った科学館学習支援システムに関する実証実験を実施し、データの収集と分析を行いました。

本事業では、ユビキタス社会における生涯学習機関での情報機器のあり方に関する研究委員会を組織し、調査研究の実施内容検討と実証実験結果について評価し、報告書を取りまとめました。

ユビキタス社会における科学館学習支援システムの実用化研究委員会

委員長	廣瀬 通孝	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授
委員	池井 寧	首都大学東京 システムデザイン学部 准教授
委員	季里	株式会社七音社 取締役
委員	葛岡 英明	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授
委員	椎尾 一郎	お茶の水女子大学 理学部情報科学科 教授
委員	蔵田 武志	独立行政法人 産業技術総合研究所 主任研究員
委員	西岡 貞一	筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 教授

「iPhoneを使った科学館学習支援システム実験」

日時：平成 22 年 2 月 22 日（月）～平成 22 年 3 月 7 日（日）

場所：(財) 日本科学技術振興財団 科学技術館

実験参加者：(カッコ内はアンケート回答者)

10代以下：男性9名、女性6名（男性8名、女性3名）

20代：男性11名、女性1名（男性9名）

30代：男性12名、女性3名（男性10名、女性3名）

40代：男性10名、女性4名（男性9名、女性3名）

50代：男性7名（男性6名）

60代：男性5名（男性2名）

小計：男性54名、女性14名（男性44名、女性9名）

合計68名（53名）

2. 自主研究開発事業

次世代科学館情報環境の研究開発

本事業は、科学館、博物館などにおけるIT活用として相応しい研究・開発テーマを「次世代科学館情報環境の研究開発」として取り上げ、大学等の研究機関との連携による自主研究開発事業として展開することにより、情報処理技術の研究開発とその促進及び情報の提供を推進しました。

(1) 他者とのコミュニケーションを支援する博物館遠隔鑑賞システムの研究開発

何らかの事情で博物館に来館することのできない人が、博物館に設置されているロボットを遠隔操作することによって、展示物を鑑賞することができるシステムの研究開発を、筑波大学大学院システム情報工学科 葛岡研究室との共同研究として実施しました。

本年度は、実証実験として、科学技術館内にてロボットを用いた鑑賞行動の実験を、2月11日(木)～2月13日(土)に実施しました。

(2) 博物館における教育情報発信

館内実験演習遠隔鑑賞実験の一環として、(株)日立製作所のビデオ会議システム「WooLive」を使用して、昨年度に引き続き科学技術館「建設館」のワークショップを所沢航空発祥記念館にライブ配信する実証実験を計画しました。昨年度の実験から改良すべき点として回線スピードの向上が挙げられるため、秋口より航空発祥記念館のインターネット接続環境の増速に向けた調整をおこない、2月に工事実施、3月11日(木)に実験を実施しました。回線スピードの向上により、映像品質が格段に改善されたことが確認されました。

(3) ミュージアムショップのWebショップ化に関する研究開発

科学技術館1Fサイエンスショップで取り扱っている商品をWebショップでも購入できるよう、サイエンスwebショップサービスのプロトタイプ版を作成し、平成22年1月18日(月)にオープンしました。

3. 受託開発事業

次のシステム開発・運用事業を受託しました。

(1) 情報処理システムの研究開発

- ・環境省 平成21年度閣議アセス事例情報の整理業務
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 出張伺いシステム改修業務
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 ポータル資産管理システム平成21年度アプリ改修業務
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 資産管理システムアプリ改修及びサーバ移植業務
- ・(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 文書管理システムの平成21年度アプリ改修業務
- ・(独)日本芸術文化振興会 インターネットチケット販売システム改修業務

- ・(独)科学技術振興機構 理科ねっと SNS の構築業務
- ・(財)電源地域振興センター 原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金管理システム改修
- ・慶應義塾大学 e-learning システム作成業務
- ・運転適性検査タブレットデモ版システムの開発

(2) PLMおよびその関連システムの研究開発

- ・PLM (Product Lifecycle Management)システムの構築
- ・PLM システム推進の技術支援業務

(3) マルチメディア・データベースシステムの研究開発

- ・(独)中小企業基盤整備機構 e-中小企業ネットマガジン配信業務
- ・(独)中小企業基盤整備機構 J-Net21 モノ作り中小企業事例紹介コンテンツ作成業務
- ・(学)竹早学園 ホームページリニューアル業務

(4) 新エネルギーシステムの研究開発

- ・(財)電力中央研究所 ガスタービン保守最適化支援システム機能検証
- ・電力計算センター アブダクションモデルのプリポスト作成業務
- ・電力計算センター 気象災害情報システムの基盤部分の構築業務
- ・電力計算センター 変電設備における碍子の急速汚損塩害対策に関する台風飛来塩分予測の計算補助業務
- ・電力計算センター 変電設備の耐震性評価ツールの統合化機能構築についての検討
- ・電力計算センター 雷ハザード・リスク評価シミュレータ業務
- ・電力計算センター 太陽光発電の系統異常(瞬低)時特性解析計算業務
- ・電力計算センター 需給一体化制御による需要地系統の運用解析業務
- ・電力計算センター 分析形電源自律制御時の単独運転検出特性解析計算業務
- ・電力計算センター 分散形電源を考慮した需給信頼度評価ツール作成業務
- ・電力計算センター 微量物質濃度・沈着計算業務

(5) その他

- ・環境省 平成 21 年度 P R T R データ管理業務
- ・文部科学省 ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム(HFSP)情報提供・広報活動業務
- ・経済産業省資源エネルギー庁 平成 21 年度電源立地推進調整等事業 (即応型情報提供事業)
- ・防衛省 統合データバンクシステムプログラム維持整備業務
- ・(独)科学技術振興機構 科学技術・理科教育用デジタル教材提供システムの保守・管理
- ・(独)科学技術振興機構 SSH(Super Science High school)サーバのホスティング及び運用
- ・(独)科学技術振興機構 女子中高生の理系進路選択支援事業アンケート調査集計業務
- ・(財)日本自転車普及協会 システム保守
- ・(財)日本原子力文化振興財団 「原子力の日」ポスターコンクール事業

- ・(学)産業能率大学 債権管理システム等開発及び会計システム等運用保守
- ・(社)電子情報技術産業協会 統計データベースシステムのデータ登録・運用業務
- ・(社)日本経営協会 通信教育支援システム開発作業
- ・科学技術学園 PC ネットワーク運用支援
- ・科学技術館ホームページの更新・運用管理
- ・科学技術館 メールマガジン発行システムの運用管理
- ・通信制高校向け 教務事務 OA システムの稼働維持
- ・IC カード発行システム技術支援業務

4. 情報処理サービス事業

インターネット等を活用した情報処理サービス事業を実施しました。

アウトソーシングサービス事業

- ・通信教育 Web 受講申込システムの運用
- ・通信教育成績報告支援サービス
- ・通信教育支援システムの運用
- ・企業向け LMS (Learning Management System) の運用

V. 所沢航空発祥記念館運営事業

埼玉県が平成5年4月にオープンした所沢航空発祥記念館の管理運営業務について、埼玉県公園緑地協会とパートナーを組み「指定管理者」として選定され、平成20年度から5年間の基本委託契約のもと、今年度で2年目が完了しました。当財団の経験や実績を活かし、青少年をはじめ一般を対象とした展示活動から建物および展示施設までの全般的な管理業務を実施し、わが国の科学技術の普及啓発に貢献している事業です。

1. 展示活動

団体および個人から航空に関する資料等約 1500 点を収集しました。主な内容は以下のとおりです。

(1) 展示資料の収集

- | | |
|----------------------------------|---------|
| ・日本航空・全日空・日本エアシステム等の時刻表、搭乗記念品等 | 1,029 点 |
| ・喜多川秀男関係資料（ネガ等） | 131 点 |
| ・室内飛行機関係（機体、関係図書等） | 125 点 |
| ・1980~90 年代に羽田空港で撮影された旅客機のネガフィルム | 130 点 |
| ・ダグラス社及び日本アジア航空から贈られた記念盾 | 2 点 |

(2) 展示の修繕・保守

- ・展示館内の吊り下げ実機の吊り金具・ロープ点検およびロビーに設置してある会式1号の昇降設備・吊り金具の点検を実施しました。
- ・YS-11定期清掃を年3回行いました。
- ・1階研究室「ヘリコプター」のモーターが老朽化し動作が不安定となったため、モーターの交換と駆動系の調整を行いました。
- ・1階研究室「ベルヌーイの研究室」のボール実験装置で送風に水が混じるようになったため、空気タンク等の調整を行いました。
- ・1階研究室「翼と空気の流れ」の流体が詰まり流れなくなったため、水流の調整を行いました。
- ・1階データセンター及び2階空のQ&AのパソコンUPSが不調で自動立ち上げ、立ち下げが行われないが多かったため、UPS（無停電電源装置）の交換と調整を行いました。
- ・「所沢と日本航空史」の記述で人名の誤りを修正しました。

(3) 展示の更新

① 「大型映像館」上映フィルムの更新。

巨大スクリーン、高画質のIMAXシステムによる大型映像館では、次の通り年間の上映日程を4期に分け、各期1本ずつ合計4本の作品を上映しました。

- ・4月7日～6月30日 「ウォーキング・オン・ザ・ムーン」
- ・7月1日～9月30日 「3Dワンダフルプラネット～絶滅！進化！地球アニマル図鑑～」
- ・10月1日～12月27日 「長江」
- ・1月2日～4月9日 「アルプス」

(4) 展示資料の貸与

川崎重工業株式会社航空宇宙カンパニーの社員で構成されるボランティアチーム「K-VART」に対して土井武夫旧蔵の設計図及び紙焼き写真を複写したネガフィルムを貸与しました。

(5) 書籍及び雑誌編集への協力

① 7月30日発行のイカロス出版「月刊エアライン」9月号の特集記事「ANA東京～大阪線50周年」の編集に当たり以下の協力を行いました。

ア 大正初期に行われた所沢～大阪間の郵便物輸送等に関する資料を提供しました

イ 1960～80年代に機長として乗務し当時の資料を当館へ寄贈したANAの元パイロットへのインタビュー実施をコーディネートしました

② 書籍編集への協力

9月7日、PHP研究所発行「飛行機がよくわかる本 ヴィンテージ飛行機の世界」の編集に企画段階で協力しました。

2. 特別展等の開催

(1) 特別展の開催

①ラ・ビレット展「数あそび&楽しいコンピュータ」の開催

会 期：4月25日～6月30日

内 容：フランスのラ・ビレット科学産業都市（国立科学産業博物館）で製作された展示物により、コンピュータの考え方（Yes, No等の論理の組み合わせ）や数学の面白さについて体験をとおして分かりやすく紹介しました。

②「模型飛行機展示会」の開催

会 期：5月2日～5月6日

内 容：模型飛行機製作(彩色)同好会 SLB(ストックレスプラザーズ)の作品約100機を展示しました。

③夏休み特別展「生誕200周年記念 ダーウィンが語る進化の歴史」の開催

会 期：7月18日～8月30日

内 容：『種の起源』で進化論を唱えた英国の博物学者、チャールズ・ダーウィン。

2009年は、彼の生誕200年に当たることから開催した。生物の進化や絶滅等を映像やパネル等で紹介したほか、自由研究のヒントとしてワークシートを用意しました。またおがくず粘土を利用したワークショップも開催しました。

④国際児童年30周年記念イベント

会 期：10月3日～10月31日

内 容：国際児童年30周年記念イベントとして当館で以下の催事を行いました。

1) 熱気球係留搭乗体験

実施日：10月17日

内 容：所沢航空記念公園内（所沢航空発祥記念館の正面広場）で熱気球の係留体験搭乗を実施しました。

2) 科学実験ショー「ナゾナゾマン vs. 科学戦隊実験ジャー」

実施日：10月3日・4日

内 容：サイエンス・エンターテインメントを実施しました。

3) 実験ショー

10月10日 講師：月僧秀弥（福井市立春江中学校教諭）

タイトル「強・風が吹けば!？」

11日 講師：左巻健男（法政大学生命科学部環境応用化学科教授）

タイトル「炭素・水素の燃焼と爆発」

12日 講師：山田善春（大阪市立高等学校教諭）

タイトル「空気砲で探るウズの秘密」

17日 講師：船田智史（樟蔭中学校・高等学校教諭）
タイトル「スーパーボールでロケット実験」

18日 講師：荻野亮一（科学技術館）
タイトル「二酸化炭素ってな～に？」

内 容：飛行機が何故飛ぶのかなどを中心に、空気の力や各種科学の現象を紹介しました。

4) 工作教室

10月24日 講師：宝多卓男（大阪市立生野高等学校教諭）
タイトル「遠心力でシャボン玉！」

25日 講師：谷 俊雄（常葉学園橘高等学校教諭）
タイトル「光と色の秘密を探ろう」

31日 講師：記念館職員
タイトル「ブザー付懐中電灯の製作」

⑤ 秋の特別展「翔～日本と中国・台湾とのかけ橋～」の開催

会 期：10月23日～11月29日

内 容：「過去から現在への旅」「日本から中国・台湾への旅」をテーマに戦前（大日本航空、満州航空、中華航空）から戦後（日本航空、日本アジア航空）の機体、パイロット、客室乗務員等の資料を通して日本の航空の発展が中国・台湾との関係に果たした役割を紹介しました。

協 力：(株)日本航空、根来昭・根来智子

⑥ 春休み特別展「パイロットにチャレンジ！！ キミもフライトシミュレータを操縦してみよう！」

会 期：平成22年3月26日～4月4日

内 容：「飛行機を操縦するパイロット」をテーマに、体験コーナーとしてモーション型フライトシミュレータ、パソコンを利用したフライトシミュレータの展示のほか、パイロット適正試験や採用学科試験を紹介しました。

⑦ ゴールデンウィーク大型映像フェスティバル

会 期：4月25日～5月10日

内 容：通常上映作品「ウォーキング・オン・ザ・ムーン」のほかに、「アニマロポリス」を上映しました。

⑧ 夏休み大型映像フェスティバル

会 期：8月8日～23日

内 容：通常上映作品「3Dワンダフルプラネット～絶滅！進化！地球アニマル図鑑～」のほかに、「ナノワールドへようこそ～ナノってなんなの？～」を上映しました。

⑨冬の大型映像フェスティバル

会 期：12月12日～27日

内 容：通常上映作品「長江」のほかに「ライト・ビフォア・クリスマス」「天までとどけ」
を上映しました。

⑩春休み大型映像フェスティバル

会 期：平成22年3月20日～31日

内 容：通常上映作品「アルプス」のほかに「ナットのスペースアドベンチャー」を上映し
ました。

(2) ミニイベント

①「春の音楽 in 所沢航空発祥記念館」

会 期：4月18日

内 容：展示館2階でオカリナによって春を感じられるような音楽を聞く演奏会を行いました。

出 演：オカリナ同好会

②航空ミニジャンク市

会 期：12月5日、6日

内 容：景気類、操縦舵、フライトレコーダーなど、航空機部品・グッズのジャンク品の展示
即売会を実施しました。

③「所沢航空ワンコイン寄席」

会 期：12月20日

内 容：プロの落語家による、公開寄席を行いました。

出 演：三遊亭遊喜(落語演芸協会 真打ち)、春風亭昇々(同協会 前座)

④熱気球から夜景を楽しもう！

会 期：12月23日

内 容：所沢航空記念公園管理事務所と共催で、所沢航空記念公園内（所沢航空発祥
記念館の正面広場）で17時～19時に熱気球の係留体験搭乗を実施し
ました。

⑤新春凧工作教室

会 期：平成22年1月3日

内 容：正月恒例の凧制作の指導を実施し、正月らしい「こま」をイメージした「こま凧」の
製作を行いました。

⑥航空演劇「スピードの中身」

会 期：平成22年3月20日、21日

内 容：展示館を会場として演劇パフォーマンスを行いました。

出 演：中野成樹＋フランケンズ

⑦工作ひろば

会 期：平成21年4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、9月19日、
10月17日、11月21日、12月19日、2月20日、3月20日、

内 容：展示館入館者を対象とした工作ワークショップ「ぶんぶんゴマ作ろう!」「折り紙飛行
機作り」「落ちる紙」「パラパラマンガ作り」を実施しました。

(3)実験ショー

空気に関する実験をとおり、飛行の原理を説明する実験ショーを開催しました。

- ・日 時：6月7日
講 師：北野貴久（神戸村野工業高校）
- ・日 時：6月21日
講 師：村田直之（ケニス株）
- ・日 時：7月12日
講 師：すずきまどか（科学技術館）
- ・日 時：7月26日
講 師：吉村利明（都立富士森高校）
平野弘之（神奈川県立相模大野高校）
古田豊（立教新座高校）
- ・日 時：8月9日
講 師：額額満（日本ガイシ株）
- ・日 時：8月23日
講 師：すずきまどか（科学技術館）
- ・日 時：9月27日
講 師：荻野亮一（科学技術館）
- ・日 時：10月18日
講 師：荻野亮一（科学技術館）
- ・日 時：11月8日
講 師：荻野亮一（科学技術館）
- ・日 時：12月13日
講 師：川上義孝（千葉県立千葉高校）
岩宮しげみ（千葉県立鎌ヶ谷高校）
- ・日 時：平成22年1月30日
講 師：すずきまどか（科学技術館）
- ・日 時：2月21日
講 師：荻野亮一（科学技術館）

・日 時：3月21日

講 師：川上義孝（千葉県立千葉高校）

岩宮しげみ（千葉県立鎌ヶ谷高校）

3. 公開講座の開催

(1) 「ANA、日中友好の翼とアジア路線の展開」

会 期：6月20日

講 師：功力義雄 ANA総合研究所 主席研究員

(2) 「日本大学から生まれた人力飛行機たち～木村秀政関係資料から～」

会 期：7月4日

講 師：安部建一 日本大学 航空研究会 顧問

千本木茂夫 元 防衛省技術研究本部技術開発官<船舶担当>、

現 (財) 防衛調達基盤整備協会常務理事<ISO認証担当>

岡宮宗孝 元 日本アイ・ビー・エム (株) 官公庁プロジェクトエグゼクティブ

現 IT ビジネス コンサルタント)

(3) 「航空交通管制と東京航空交通管制部施設見学会」

会 期：10月3日

講 師：嶋岡有子 国土交通省東京航空交通管制部 航空管制官

(4) 「世界一周70周年記念 ニッポン号に秘められたドラマ～小説『翼をください』を語る」

会 期：11月21日

講 師：原田マハ

矢部俊男

岩井俊介

(5) 「JAL・JAA 機内食の世界～企画から機内サービスまで」

会 期：11月29日

講 師：田中誠二 ((株)日本航空 お客様本部 商品・サービス戦略部 マネジャー)

吉原真佐子 ((株)日本航空 第2客室乗員部 キャビンスーパーバイザー

<台湾線乗務経験者>

(6) 「元開発者が語る防衛航空機 (適用した平成のハイテクとその技術派生)」

会 期：平成22年3月20日

講 師：村木裕世 (当館航空機インストラクター<ボランティア>)

4. 普及啓発活動

(1) 学習支援プログラムの開始

①展示館内にワークシートを設置し、展示見学の学習サポート要素を追加いたしました。

内 容：所沢の歴史編、飛行機の名前編、研究室たんけん編

②展示ガイドツアーを実施しました。

内 容：所沢の航空の歴史、飛行の原理

実施日：4月15日、4月19日、5月6日、5月8日、5月21日、5月28日、6月24日、9月9日、
9月11日、9月16日、10月3日、11月19日、11月26日、12月5日、12月10日、
1月27日、2月26日

(2) キッズ・チャレンジ倶楽部の活動

①工作教室は以下のテーマで10回開催しました。参加者は述べ165名でした。

- ・いろいろな形の画用紙コマ
- ・オリジナル eco バック作り
- ・ピンホールカメラを作ろう！（3回）
- ・挑戦！滞空時間20秒の紙飛行機
- ・キッズ・チャレンジ倶楽部大撮影会！（2回）
- ・クリスマスオーナメントを作ろう！
- ・カリンバを作ろう！

②科学教室は以下のテーマで9回開催しました。参加者は述べ210名でした。

- ・シャボン玉の科学 その1
- ・宿題追込み大作戦 スライム
- ・ふでばこの科学 カラーペン
- ・阿部先生の気象予報士 入門編
- ・デンブンの科学
- ・手作りカイロを作ろう！
- ・不思議な板 偏光板
- ・DNAを抽出しよう！
- ・フライドチキンで骨を学ぼう

③自然観察教室は以下のテーマで3回開催しました。参加者は述べ100名でした。

- ・航空記念公園の初夏を歩く
- ・秋の自然観察会～鳥の巣箱かけ～
- ・星空観望会

④視察見学教室は以下のテーマで2回開催しました。参加者は述べ75名でした。

- ・横浜火力発電所～電気ができるまで～
- ・羽田空港と日本科学未来館見学

⑤数学教室は以下のテーマで1回開催いたしました。参加者は述べ15名でした。

- ・コンパスと定規による作図

⑥はじめの教室・終わりの教室は以下のテーマで2回開催しました。参加者は述べ51名でした。

- ・謎のブラック・ボックス（はじめの教室）
- ・謎のブラック・ボックス（終わりの教室）

⑦自由研究対応日・ミッチとキムは実験中を無料で4回開催しました。

参加人数は述べ12名でした。

- ・自由研究対応日（3回）
- ・ミッチとキムは実験中

⑧年度末には子供達の様子をまとめた保護者向けの教室を1回開催しました。参加人数は述べ24家族でした。

- ・第一期生 写真公開日

5. 格納庫・収蔵庫およびYS-11機の特別公開

屋外展示「YS-11機」と別棟にある格納庫・収蔵庫を一般に公開し機体の解説と来館者の安全確保を行いました。

公開日	屋外展示「YS-11機」	格納庫の展示	備考
4月4日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民文化フェア
4月5日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民文化フェア
4月18日	一般公開と質問対応	—	特別公開日
5月16日	一般公開と質問対応	—	特別公開日
10月24日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民フェスティバル
10月25日	一般公開と質問対応	一般公開と機体の解説	市民フェスティバル
11月14日	(雨天中止)	一般公開と機体の解説	埼玉県民の日
11月15日	操縦席搭乗体験	—	操縦席搭乗体験
11月23日	一般公開と質問対応	—	特別公開日
12月12日	—	一般公開と質問対応	特別公開日
3月27日	—	一般公開と質問対応	特別公開日

6. 「県民の日」記念事業

会 期：11月14日

内 容：埼玉県民の日を記念して、記念館の各施設(展示館、大型映像館、格納庫・収蔵庫、YS-11機)を一般に無料公開しました。入場者は合計4,638名でした。

7. 連携活動

4月17日 埼玉県博物館連絡協議会西部地域会議に出席しました。

4月24日 埼玉県博物館連絡協議会総会に出席しました。

6月4日 所沢航空資料調査収集する会総会に出席しました。

6月11日 平成21年度第1回全国科学博物館協議会総会に出席しました。

平成22年

2月4日 埼玉県博物館連携協議会博学連携を考える研修会に参加しました。

- 2月12日 埼玉県博物館連絡協議会博物館職員研修会に参加しました。
- 2月25日 26日平成21年度第2回全国科学博物館協議会総会及び第17回研究発表大会に出席しました。
- 3月19日 埼玉県博物館連絡協議会第2回理事会に出席しました。

8. 航空機インストラクター活動

航空機インストラクターとして登録されたボランティアにより次の活動を行いました。

(1) 飛行機教室の開催

- ・毎月の第2・4土曜日に開催し、紙飛行機やゴム動力飛行機の製作指導を行いました。
- ・奇数月の日曜日を利用して年6回の室内飛行機の製作指導を行いました。
- ・GW(5月6日)に展示館入館者を対象とした特別工作教室を行いました。
- ・出張工作教室を年1回行いました。

(2) 展示航空機保守メンテナンス

- ・展示航空機の保守メンテナンスを実施しました。

(3) 展示解説

- ・格納庫・YS-11機の一般公開時に展示航空機に対する質問対応を行いました。
- ・常設展示の解説およびジャンボシミュレータの操作指導等を行いました。
- ・「所沢メモリアルギャラリー」を中心に「日本の航空発祥の地・所沢」の意義をガイドツアーで紹介しました。

(4) 「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に対する質問対応

- ・当館に「総合的な学習の時間」で来館した児童・生徒の質問に回答しました。

(5) 講演活動

- ・9月13日、「東京国際科学フェスティバル」の一環として行われたサイエンスバーにおいて村木裕世氏が講師として「元開発者が語る日本の戦闘機（平成のハイテク戦闘機と適用技術）」と題した講演を行いました（場所：東京都武蔵野市）。
- ・平成22年1月24日、太田良一氏が講師として「姫路空襲と紫電改～旧川西航空機工場跡を訪ねて～」と題したレポート（報告会）を行いました（場所：当館）。

(6) T-1B・T-6Gコックピット搭乗体験

館内の展示機であるT-1BとT-6Gの操縦席に座ることが出来る搭乗体験を開催しました。

- ①T-1B 5回
- ②T-6G 1回

9. 広報活動

(1) 一般広報

- ・埼玉県政記者クラブ・所沢市政記者クラブおよび他のマスコミ関係に対し展示更新、映像ソフト変更時に資料を提供し、記事掲載、取材等の依頼を行いました。
- ・埼玉県内および都内、近県の主要博物館にポスター掲示とチラシの配布を依頼しました。

- ・航空公園駅内に案内看板を設置しPRを常時行いました。
- ・マスコミ各社の取材や各企業の社内報の掲載取材にも対応し、PRを行いました。
- ・彩の国だより(埼玉県発行)、翔びたつひろば(所沢市発行)に記事掲載を依頼しました。
- ・ホームページを利用して広報を行いました。

(2) 特別展広報

- ・埼玉県政記者クラブ・所沢市政記者クラブおよび他のマスコミ関係に対し企画書等の資料を提供し、記事掲載や取材等を依頼しました。
- ・彩の国だより、翔びたつひろばに開催告示の掲載を依頼しました。
- ・所沢市周辺の児童館、学童クラブ、小中学校に対しPR用ポスターの掲示、チラシの配布を依頼しました。
- ・埼玉県内および都内、近県の博物館にポスターの掲示を依頼しました。
- ・新聞広告による告知を行いました
- ・航空公園駅の駅頭のYS-11展示場フェンスに横断幕を設置しました。
- ・西武線の電車内やターミナル駅にイベントの広告を掲示しました。
- ・所沢市の広報誌に広告を掲示しました。

(3) 団体誘致活動

- ・埼玉県内および都内・近県の幼稚園、保育園、小・中学校にパンフレットを配布しました。
- ・埼玉県内および都内・近県の旅行業者に対しパンフレットを配布しました。
- ・所沢市内の児童館に対しパンフレットを配布しました。

10. その他

(1) 中学校職場体験の受け入れ

所沢市立三ヶ島中学校から職場体験の依頼があり、7月2日・3日に2年生の生徒3名を受け入れ、特別展の撤収や夏休み特別展のチラシ袋詰め等の実地体験を行いました。

(2) 学校公開における公演への協力

11月7日、所沢市立北小学校の学校公開における科学実験ショー「環境問題を考えよう」公演に当たり協力を行いました。(講師は科学技術館職員)。

(3) 航空発祥100周年記念事業

2011年の所沢飛行場開設100周年に向けて、埼玉県、所沢市と協力して「日本の航空発祥100周年・所沢記念事業実行委員会」を設立し、実行委員会を4回開催しました。

(4) 入館料の変更

4月1日に小人の入館料を変更しました。

(5) 臨時開館の実施

夏休み<お盆>期間中の休館日(月)である8月10日に、来館者サービスのため、臨時開館を実施しました。

1 1. 入館者状況

(単位：人)

入館者数		平成21年度	平成20年度
有料	展示館	66,008	64,274
	大型映像館	16,962	19,627
	小計①	82,970	83,901
無料	展示館	128,336	117,508
	大型映像館	30,517	33,382
	小計②	158,853	150,890
合計①+②		241,823	234,791

※前年比7,032人増となり、3年ぶりに増加傾向に転じました。